

第2章

一般高齢者の調査結果

(介護予防・日常生活支援ニーズ調査)

第2章 一般高齢者の調査結果

1 家族構成や生活状況について

(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

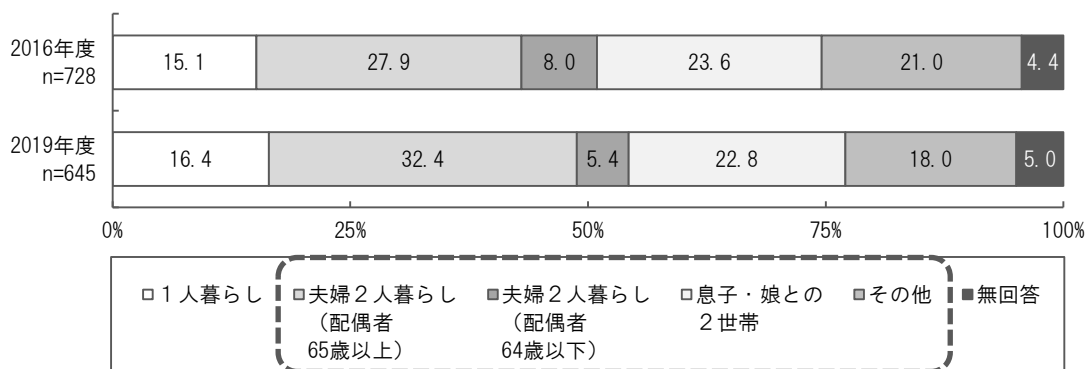
○家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（32.4%）が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」（22.8%）、「1人暮らし」（16.4%）となっています。

○前回調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は4.5^{ポイント}、「1人暮らし」は1.3^{ポイント}高く、「息子・娘との2世帯」は0.8^{ポイント}低くなっています。

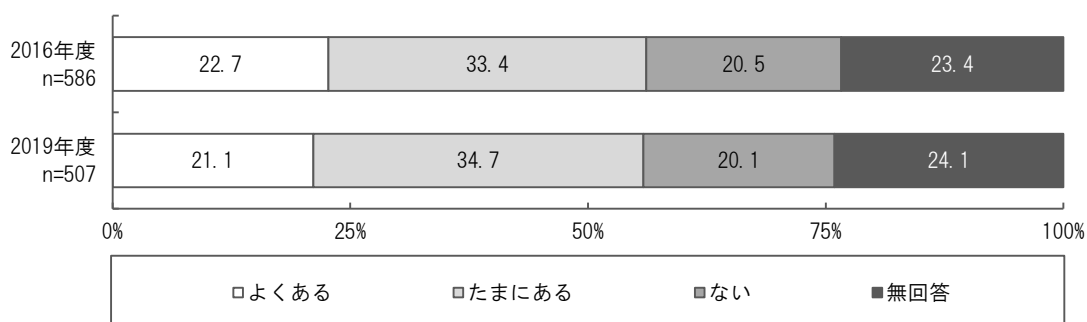
○日中に1人になることが「よくある」または「たまにある」方は55.8%となっています。

○前回調査と比較すると、日中に1人になることが「よくある」または「たまにある」方は、0.3^{ポイント}低くなっています。

問1-(1) 家族構成（経年比較）



問1-(1).① 日中、1人になることがあるか



(2) 日常生活における介護（介助）の状況

○普段の生活での介護・介助の状況をみると、「介護・介助は必要ない」（68.8％）が最も高く、一方、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」方は2.9％となっています。

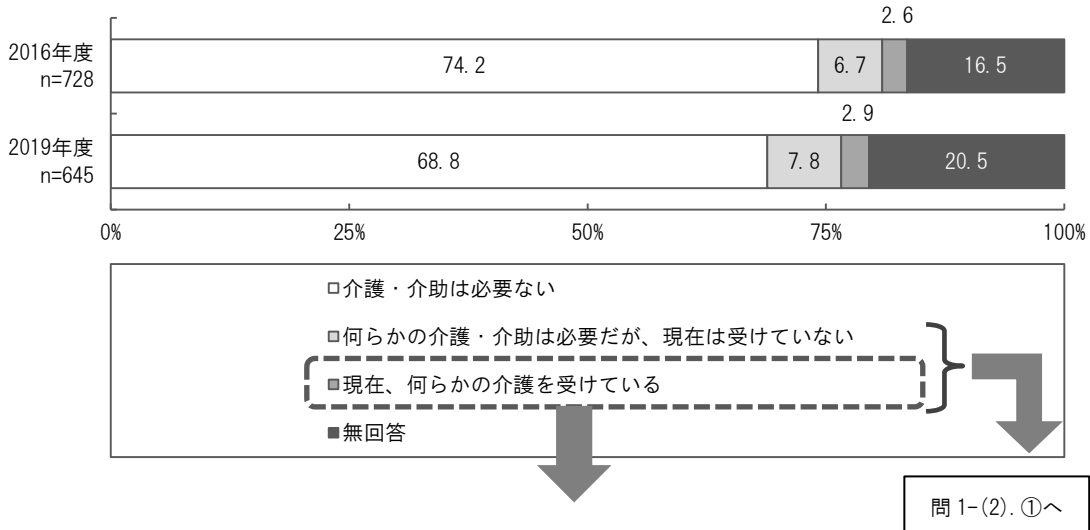
○前回調査と比較すると、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」方が0.3^{ポイント}高くなっています。

○介護、介助をしてくれる人は、「配偶者（夫・妻）」（20.3％）が最も高く、次いで「娘」（15.9％）、「息子」（13.0％）となっています。

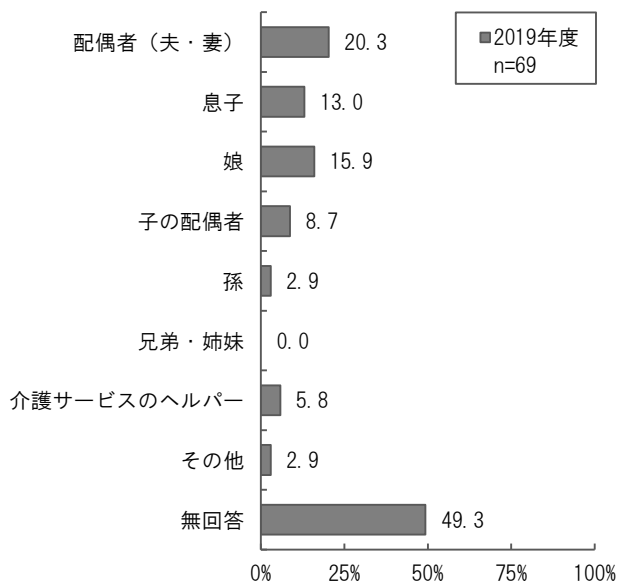
○介護・介助が必要になった主な原因をみると、「高齢による衰弱」（21.7％）が最も高く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（20.3％）、「視覚・聴覚障害」（14.5％）、「関節の病気（リウマチ等）」（13.0％）、「心臓病」（11.6％）となっています。

○前回調査と比較すると、「高齢による衰弱」が8.5^{ポイント}、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「視覚・聴覚障害」が各7.1^{ポイント}、「骨折・転倒」が4.3^{ポイント}高くなっています。

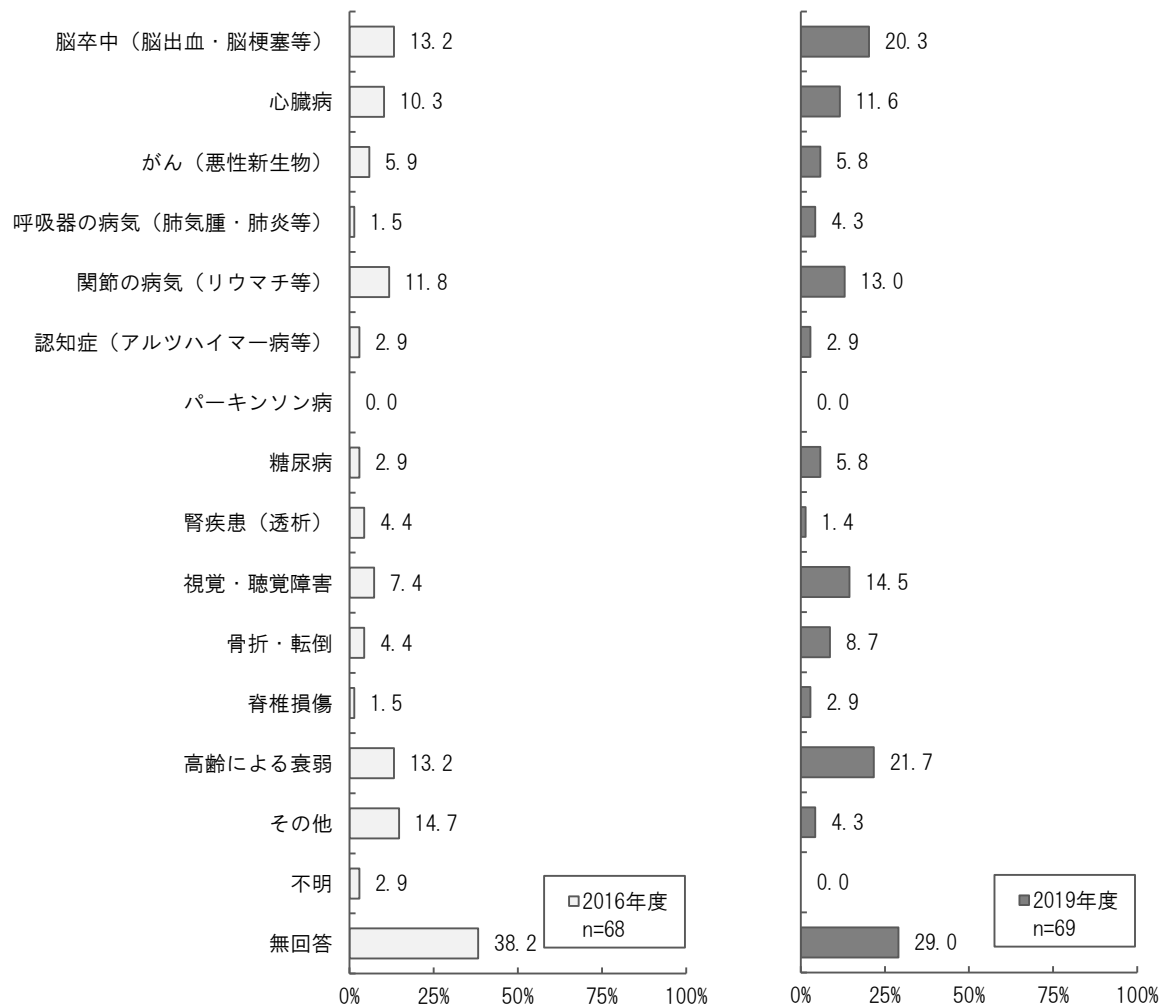
問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か（経年比較）



問1-(2).② 介護・介助をしてくれる人



問1-(2).① 介護・介助が必要になった主な原因（経年比較）

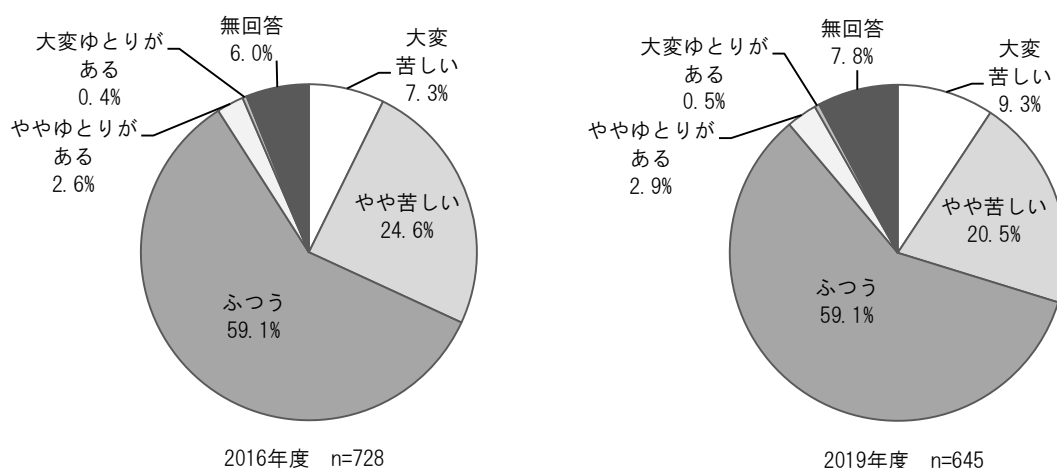


(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状況をみると、「ふつう」（59.1%）が最も高く、次いで「やや苦しい」（20.5%）、「大変苦しい」（9.3%）となっています。

○前回調査と比較すると、「大変苦しい」が2.0ポイント高く、「やや苦しい」が4.1ポイント低くなっています。

問1-(3) 経済的にみた現在の暮らしの状況（経年比較）



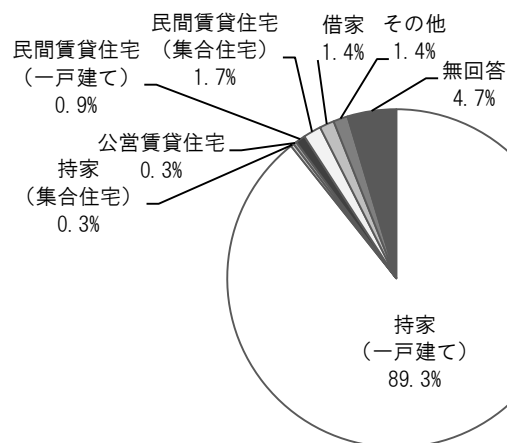
(4) 現在の居住環境

○現在暮らしている家の状況を見ると、「持家（一戸建て）」（89.3%）が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（1.7%）、「借家」（1.4%）となっています。

○2階以上に主な居住環境がある方は19.2%となっています。

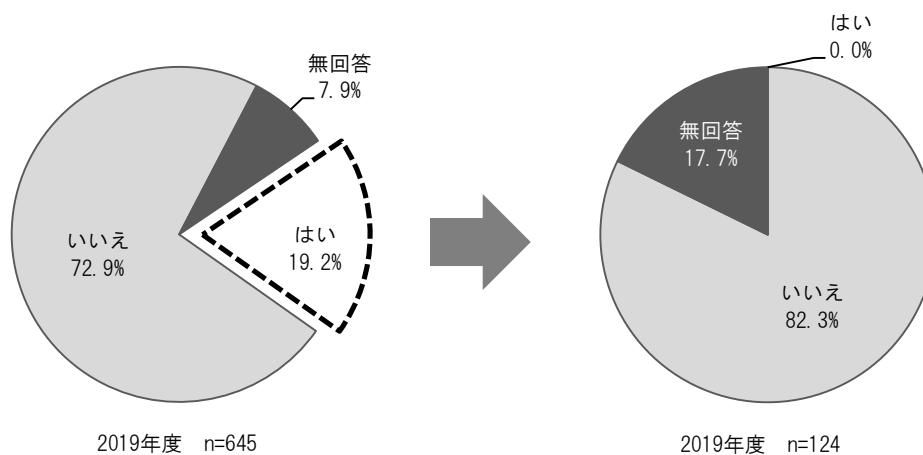
○また、2階以上に主な居住環境がある方のうち、エレベーターが設置されていると回答した方はいませんでした。

問1-(4) 現在暮らしている家の状況



2019年度 n=645

問1-(5) 2階以上に生活する部屋があるか 問1-(5).① エレベーターが設置されているか



2019年度 n=645

2019年度 n=124

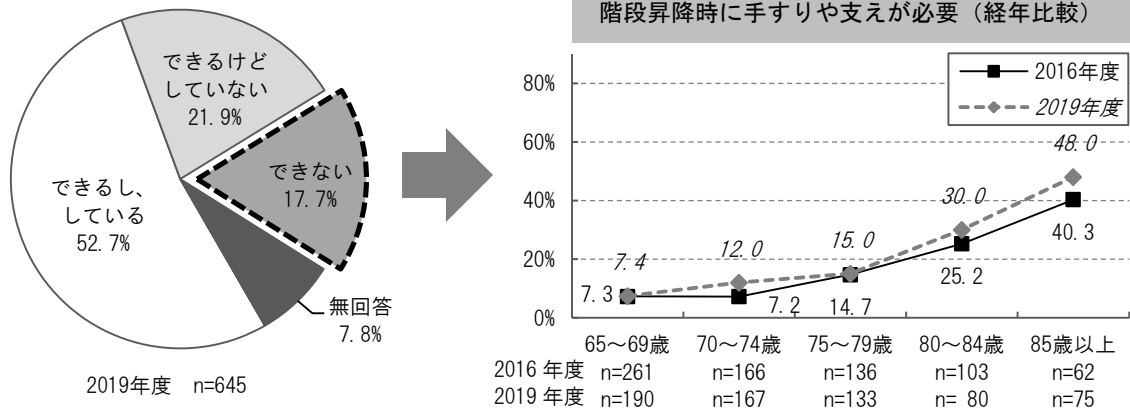
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

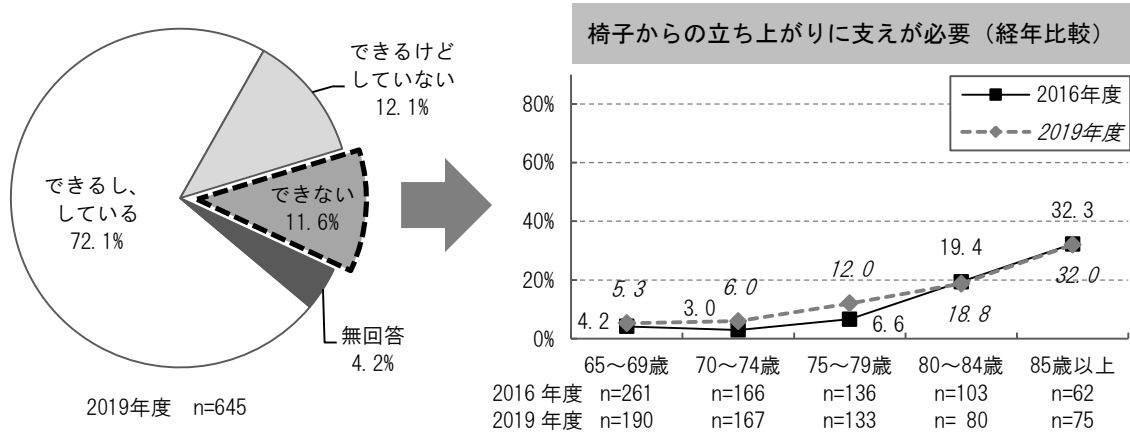
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない方は17.7%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない方は11.6%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか

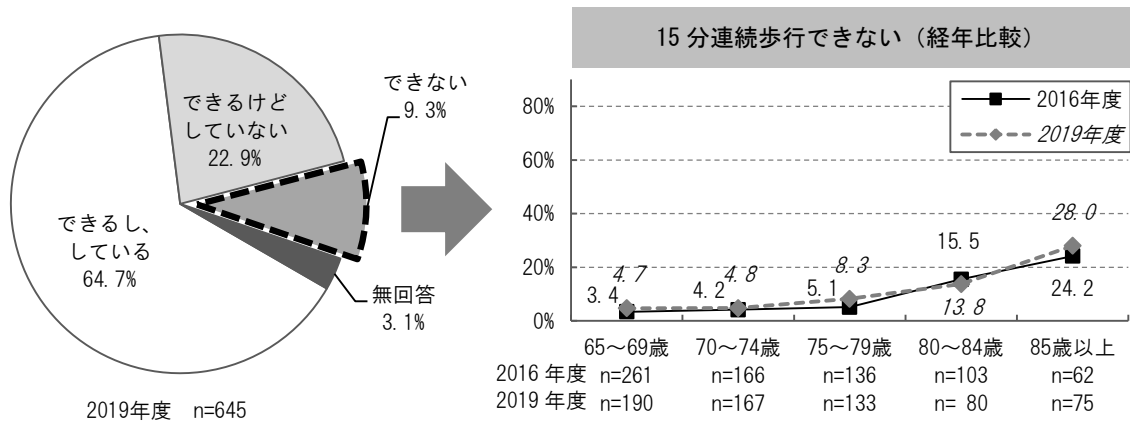


○15分位続けて歩くことができない方は9.3%となり、年齢階級別にみると65～79歳はほぼ横ばいですが、80歳以上で割合が高くなっています。

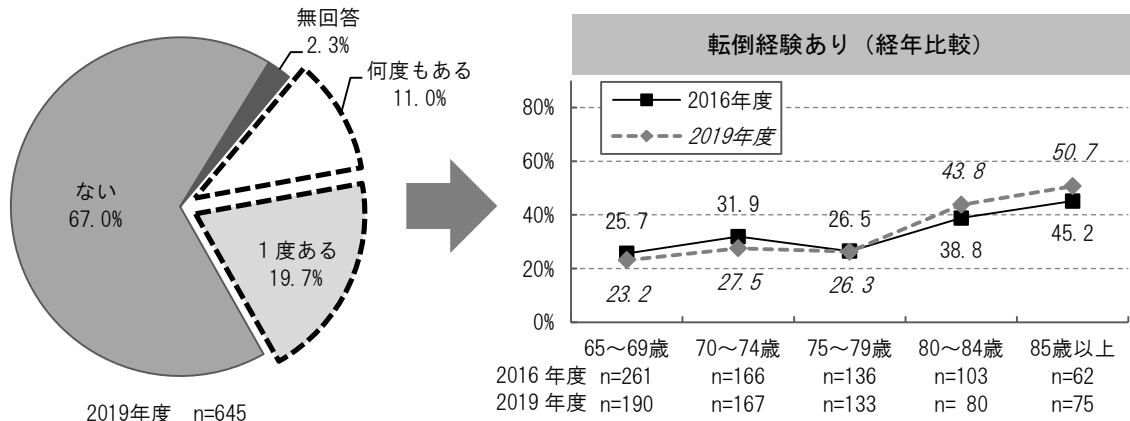
○過去1年間に転んだ経験がある方は、「1度ある」(19.7%)と「何度もある」(11.0%)を合わせた30.7%となり、年齢階級別にみると65～79歳は2割台で横ばい傾向ですが、80歳以上は4割を超え高くなっています。

○転倒に対する不安がある方は、「やや不安である」(34.9%)と「とても不安である」(14.4%)を合わせた49.3%となり、年齢階級別にみると80～84歳は6割台、85歳以上では7割台となっています。

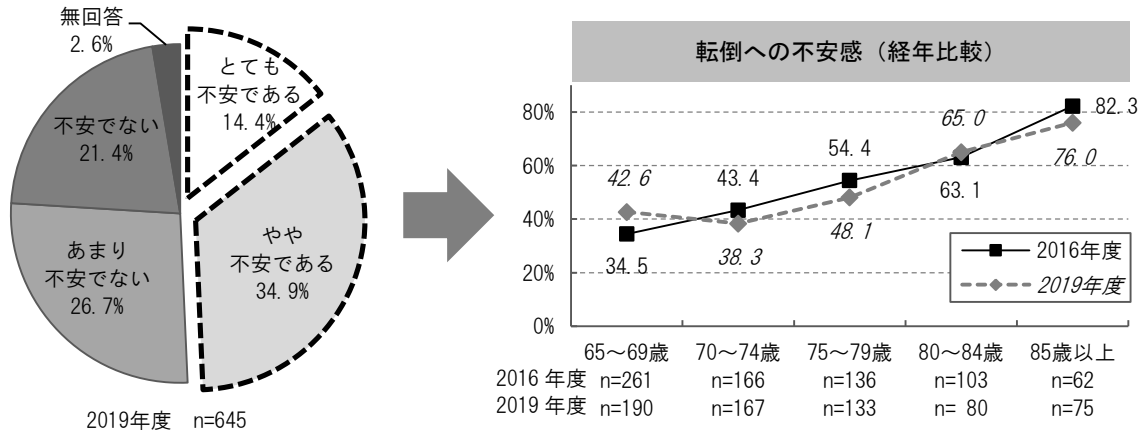
問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか



問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



問2-(5) 転倒に対して不安はあるか

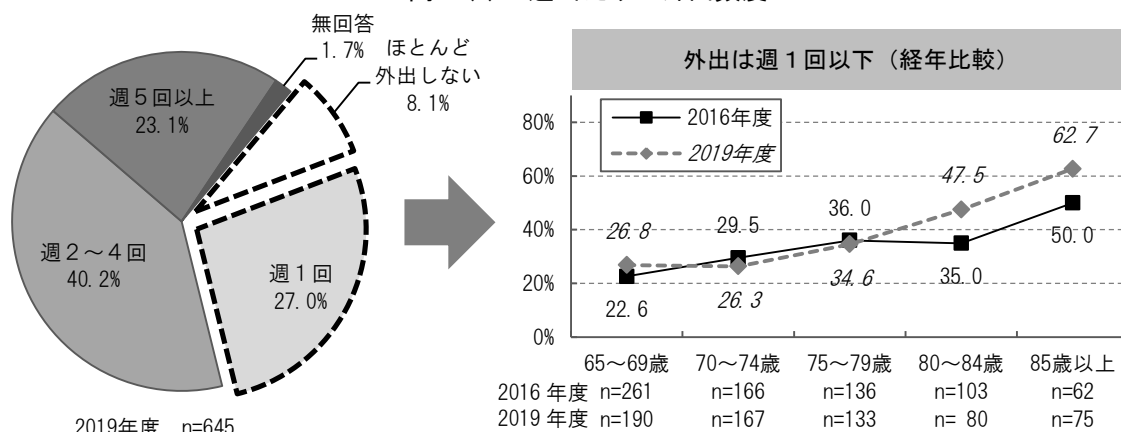


(2) 外出の状況

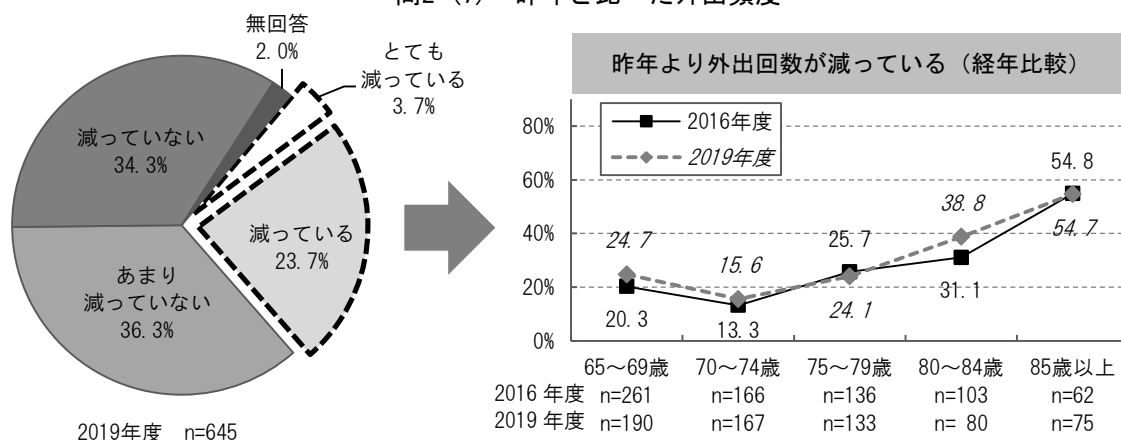
○外出が週に1回以下の方は、「週1回」(27.0%)と「ほとんど外出しない」(8.1%)を合わせた35.1%となり、年齢階級別にみると65~74歳は横ばい、75歳以上は加齢とともに割合が高くなっています。

○昨年と比べて外出の頻度が減っている方は、「減っている」(23.7%)と「とても減っている」(3.7%)を合わせた27.4%となり、年齢階級別にみると80~84歳は4割弱、85歳以上では5割を超えています。

問2-(6) 週当たりの外出頻度



問2-(7) 昨年と比べて外出頻度



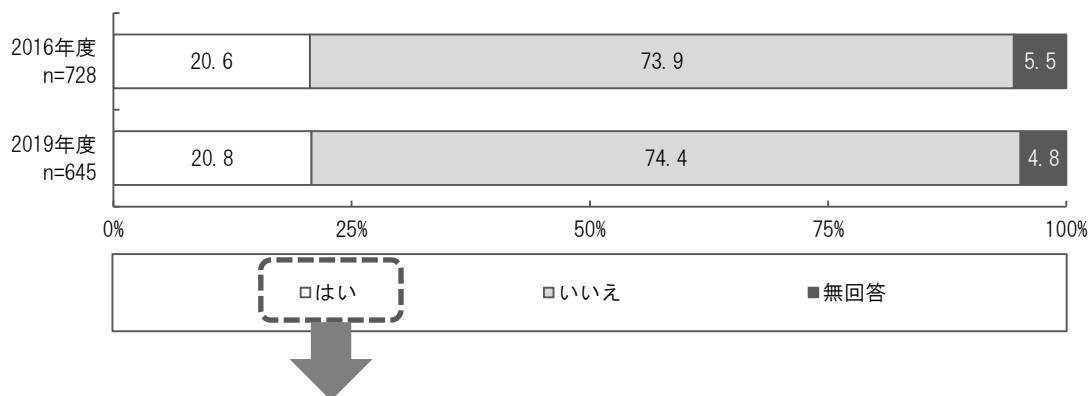
○外出を控えている方は20.8%となっています。

○前回調査と比較すると、外出を控えている方は0.2^{ポイ}高くなっています。

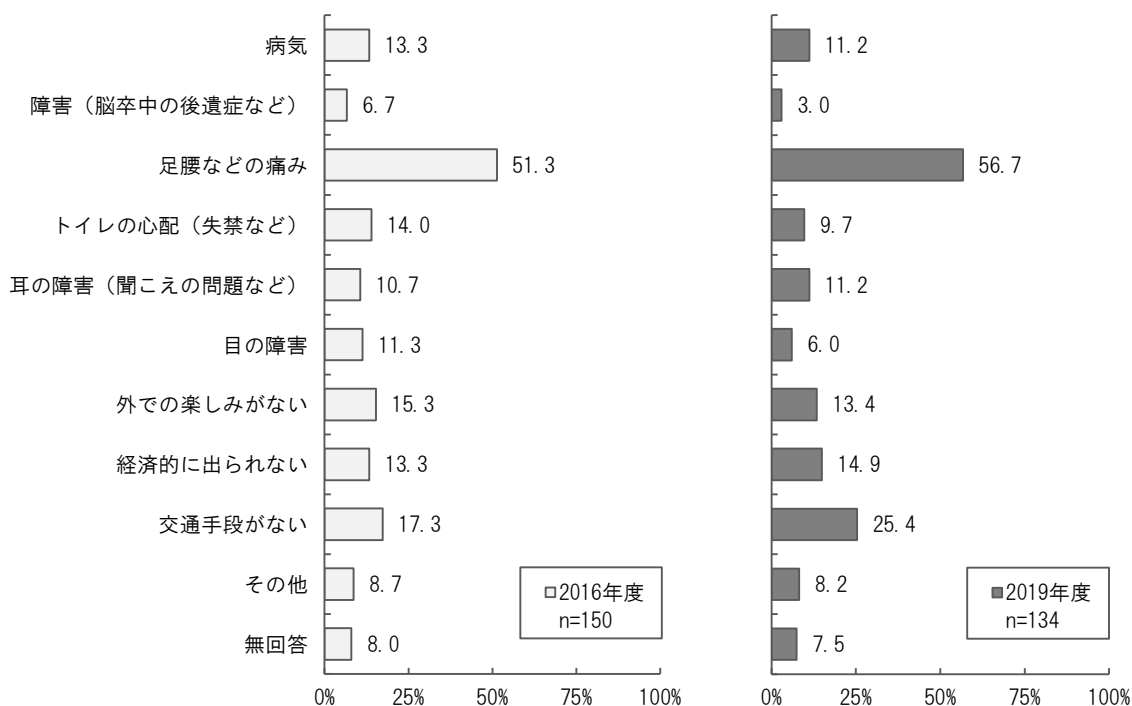
○外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」(56.7%)が最も高く、次いで「交通手段がない」(25.4%)、「経済的に出られない」(14.9%)、「外での楽しみがない」(13.4%)、「病気」「耳の障害(聞こえの問題など)」(各11.2%)となっています。

○前回調査と比較すると、「交通手段がない」が8.1^{ポイ}、「足腰などの痛み」が5.4^{ポイ}、「経済的に出られない」が1.6^{ポイ}、「耳の障害(聞こえの問題など)」が0.5^{ポイ}高くなっています。

問2-(8) 外出を控えているか(経年比較)

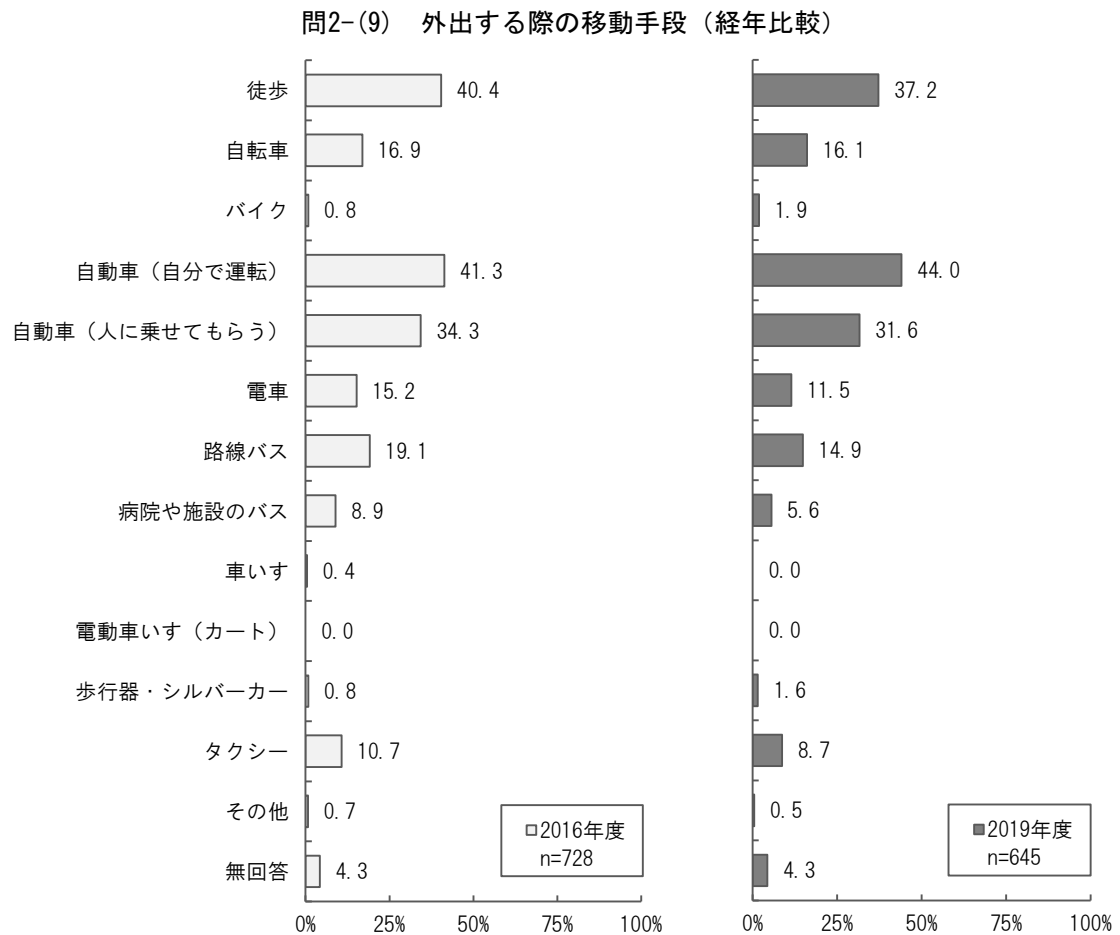


問2-(8).① 外出を控えている理由(経年比較)



○外出する際の移動手段をみると、「自動車（自分で運転）」（44.0%）が最も高く、次いで「徒歩」（37.2%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（31.6%）、「自転車」（16.1%）、「路線バス」（14.9%）、「電車」（11.5%）となっています。

○前回調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」は2.7ポイント、「バイク」は1.1ポイント高くなっています。

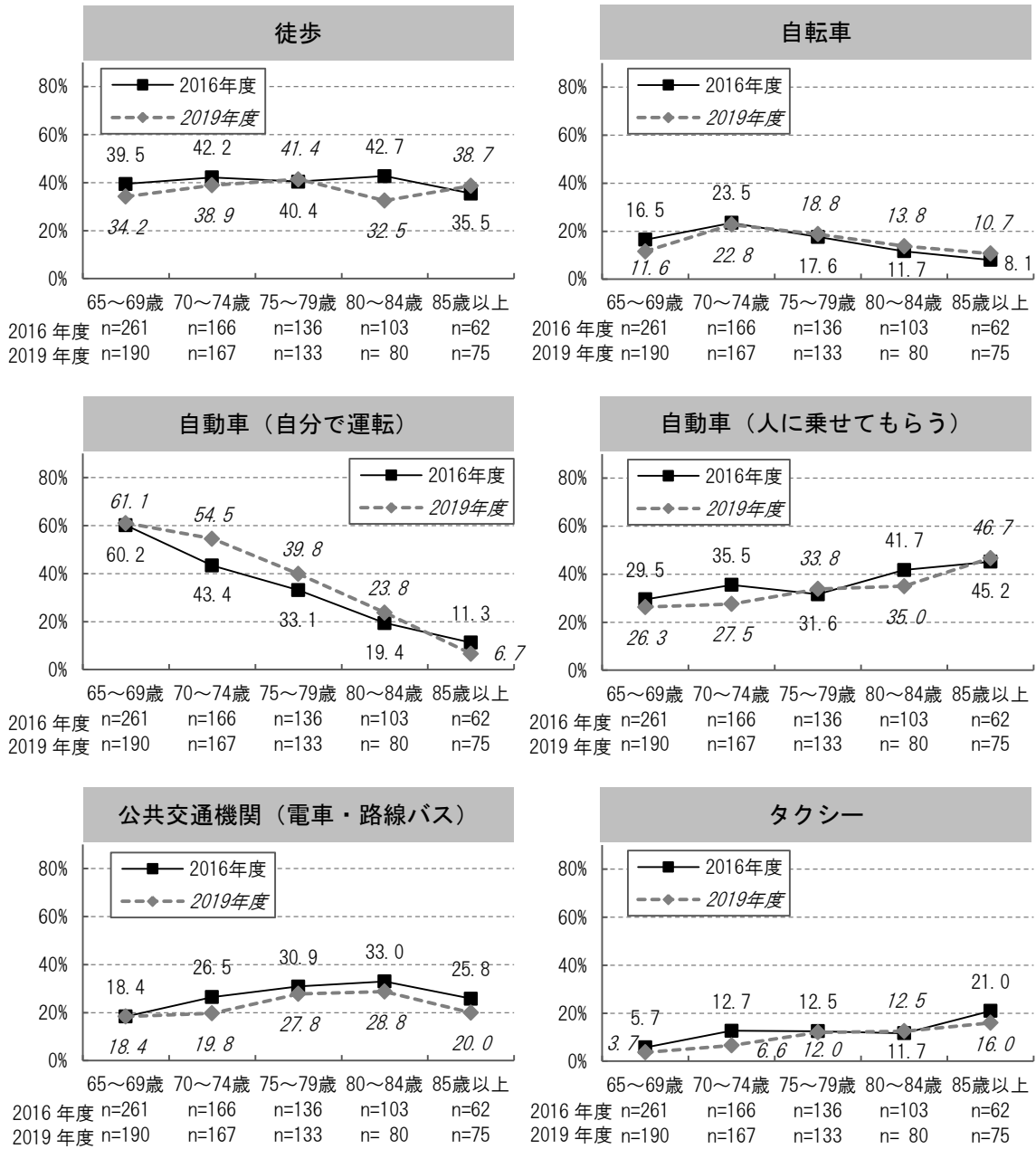


○外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「自動車（自分で運転）」は加齢とともに利用割合が低くなり、85歳以上は1割未満となっています。

○一方、「自動車（人に乗せてもらう）」は、加齢とともに利用割合が高くなっています。

○「公共交通機関（電車・路線バス）」は65～84歳は加齢とともに利用割合が高くなりますが、85歳以上では低くなります。

問2-(9) 年齢階級別移動手段（経年比較）



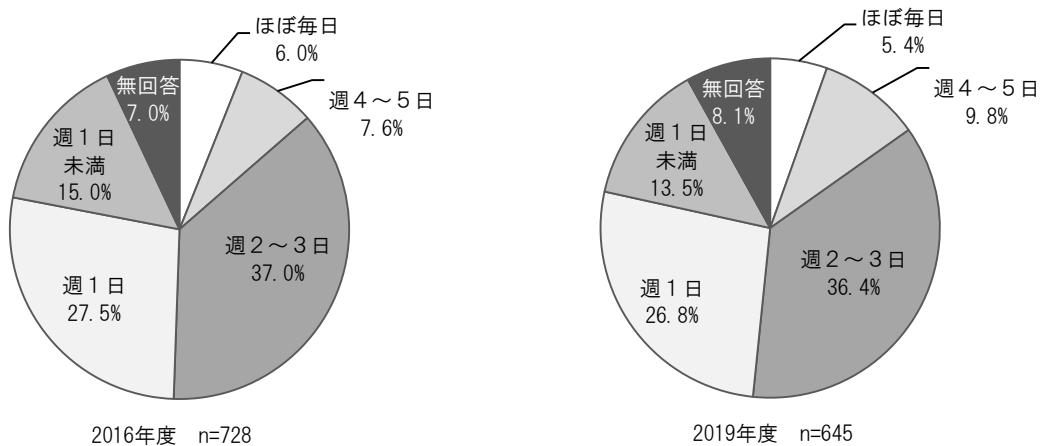
○買い物で外出する頻度をみると、「週2～3日」(36.4%)が最も高く、次いで「週1日」(26.8%)、「週1日未満」(13.5%)となっています。

○前回調査と比較すると、買い物での外出が「週1回」以下の方は2.2ポイント低いものの、大きな変化はない状況です。

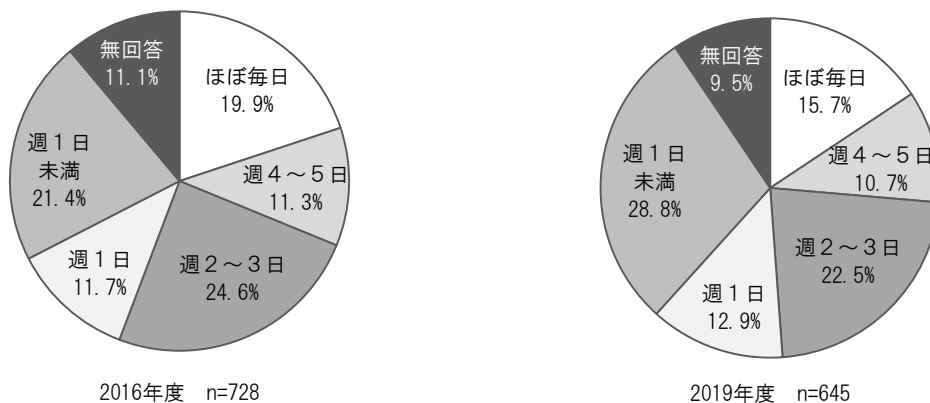
○散歩で外出する頻度をみると、「週1日未満」(28.8%)が最も高く、次いで「週2～3日」(22.5%)、「ほぼ毎日」(15.7%)、「週1日」(12.9%)、「週4～5日」(10.7%)となっています。

○前回調査と比較すると、散歩での外出が「週1回」以下の方は8.6ポイント高くなっています。

問2-(10).① 買い物で外出する頻度 (経年比較)



問2-(10).② 散歩で外出する頻度 (経年比較)



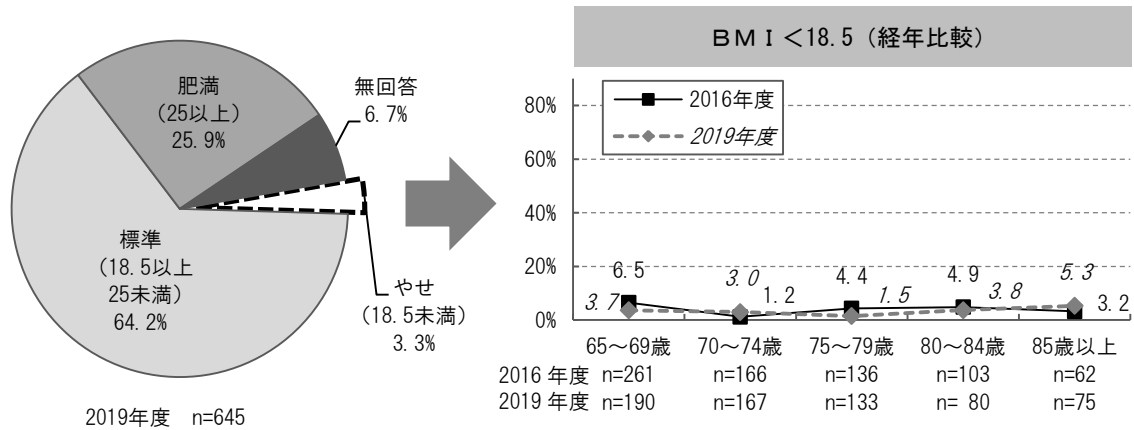
3 食べることについて

(1) 体格指数 (BMI) の状況

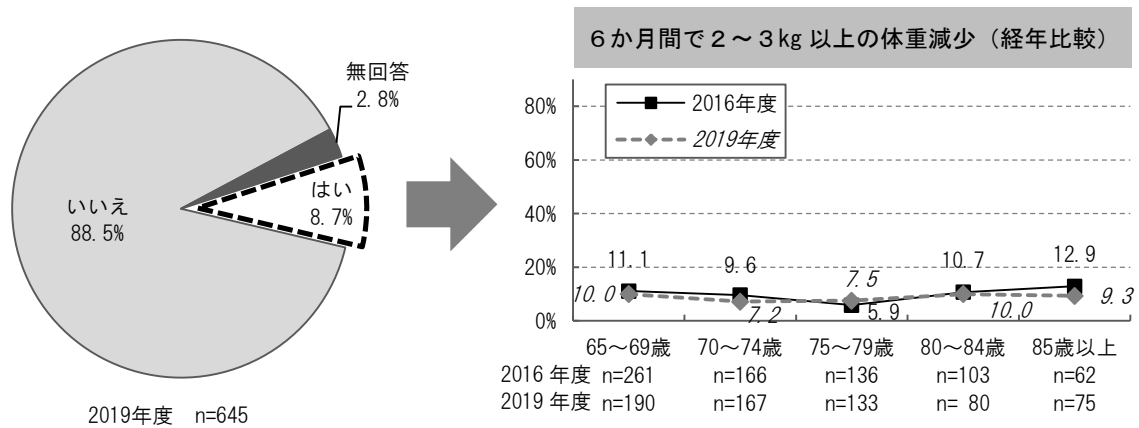
○BMI 指数が「やせ (18.5未満)」の方は3.3%となり、年齢階級別にみると1割未満で横ばいとなっています。

○6か月間で2～3kg以上の体重減少があった方は8.7%となり、年齢階級別にみると1割前後で横ばいとなっています。

問3-(1) BMI 指数



問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



(2) 歯・口腔の状況

○歯磨きを毎日している方は88.8%となっています。

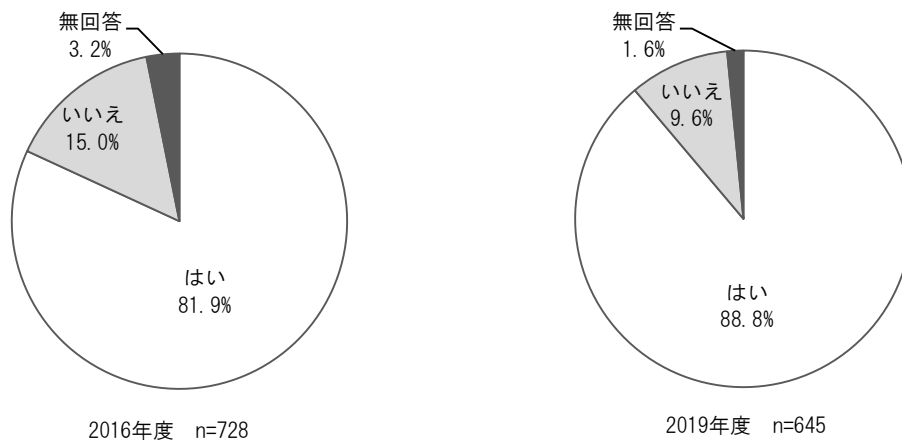
○前回調査と比較すると、歯磨きを毎日している方は6.9ポイント高くなっています。

○歯の数と入れ歯の利用状況を見ると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(54.1%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(7.9%)を合わせた62.0%が入れ歯を利用しています。

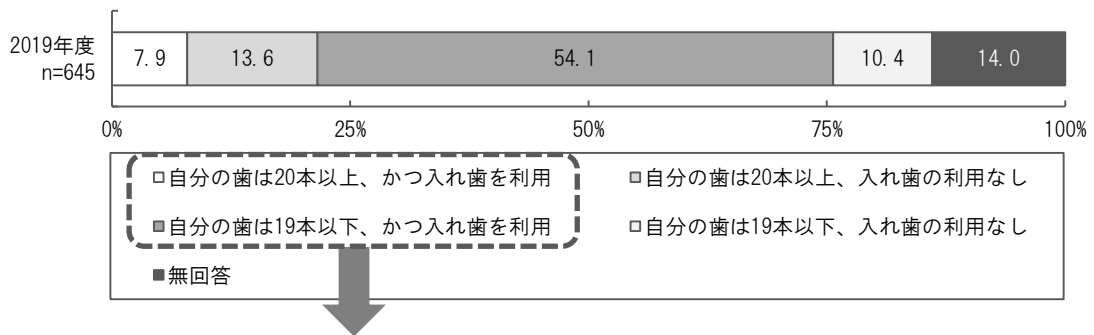
○毎日入れ歯の手入れをしている方は90.8%となっています。

○噛み合わせが悪い方は14.4%となっています。

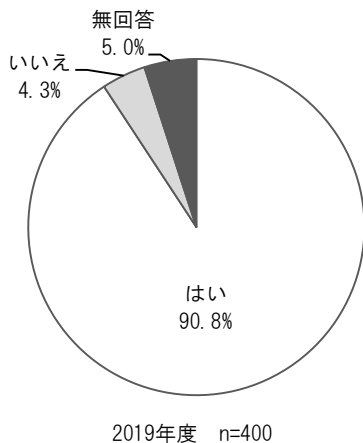
問3-(3) 歯磨きを毎日しているか (経年比較)



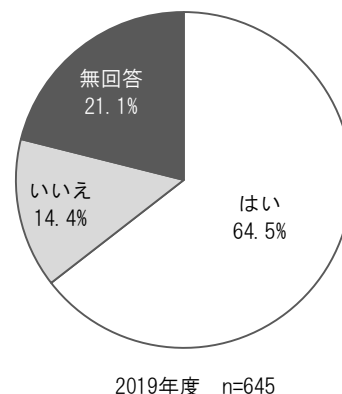
問3-(4) 歯の数と入れ歯の利用状況



問3-(4).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



問3-(4).② 噛み合わせは良いか

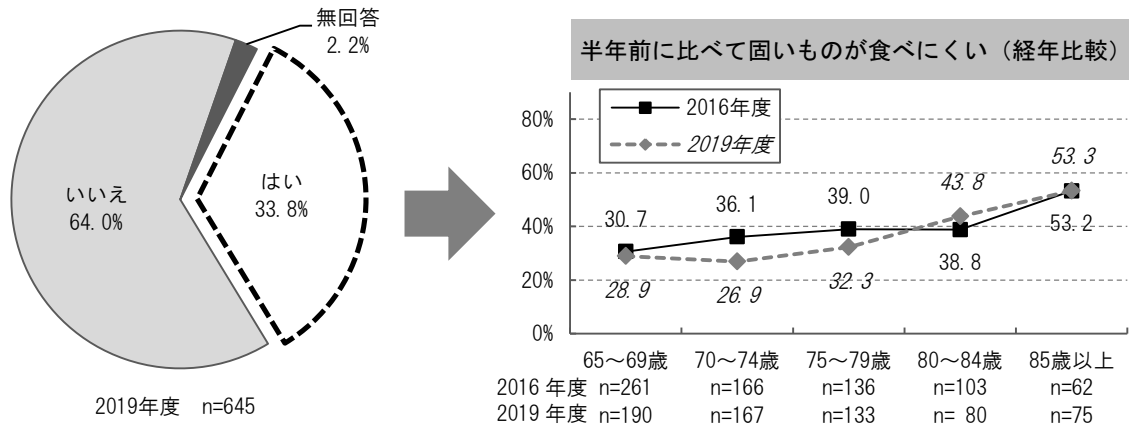


○半年前に比べて固いものが食べにくい方は33.8%となり、年齢階級別にみると65～74歳は横ばい、75歳以上は加齢とともに割合が高くなっています。

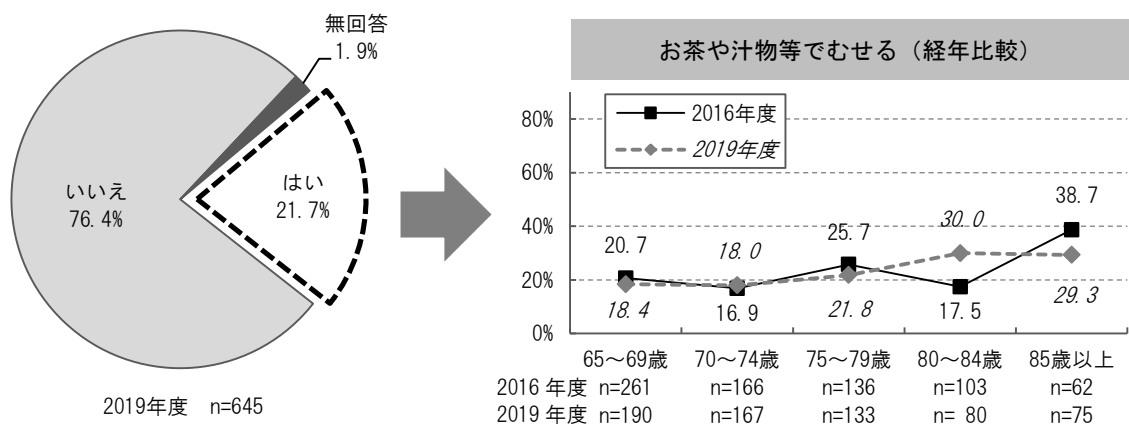
○お茶や汁物等でむせることがある方は21.7%となり、年齢階級別にみると65～79歳は2割前後と大きな変化はなく、80歳以上は約3割と高くなっています。

○口の渇きが気になる方は21.2%となり、年齢階級別にみると65～79歳は2割弱、80歳以上は3割前後となり、加齢とともに割合が高くなっています。

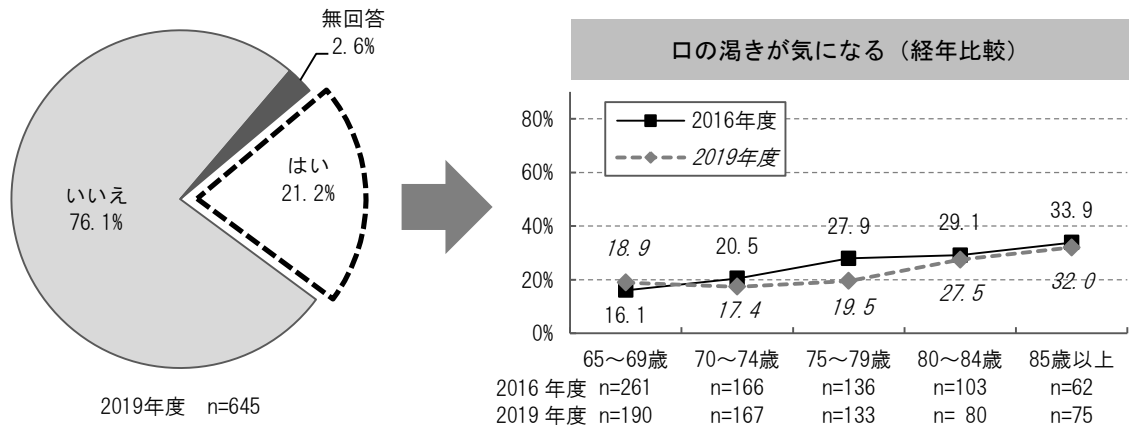
問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



問3-(6) お茶や汁物等でむせることがあるか



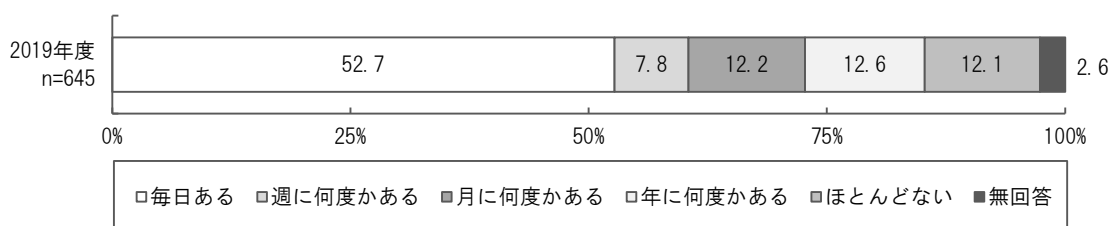
問3-(7) 口の渇きが気になるか



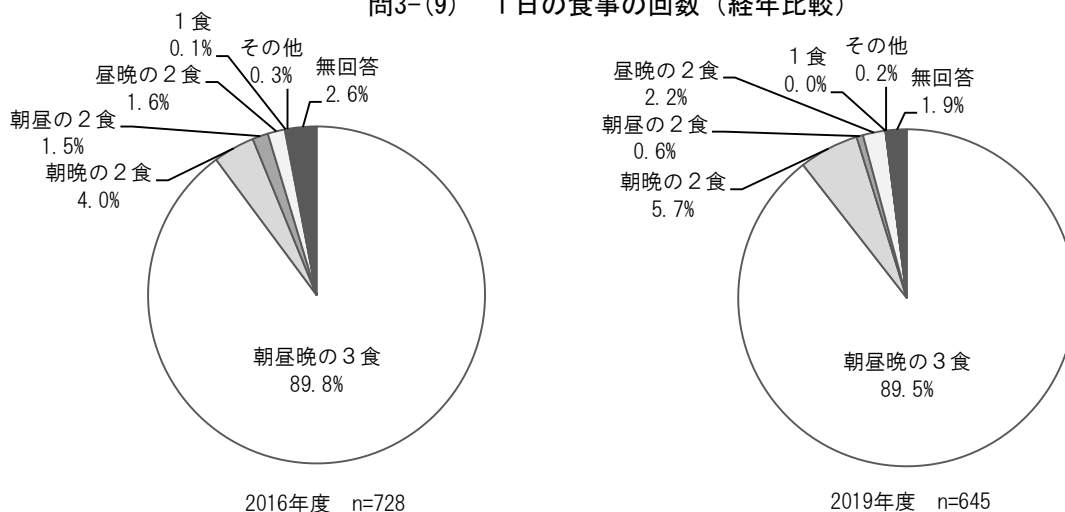
(3) 食事の状況

- どなたかと食事をともしする機会は、「毎日ある」(52.7%)が半数以上を占めています。一方、「ほとんどない」方は12.1%となっています。
- 1日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」(89.5%)が最も高いものの、8.5%は1日2食と回答しています。
- 前回調査と比較すると、「朝晩の2食」は1.7ポイント、「昼晩の2食」は0.6ポイント高くなっています。
- 食事を自分で食べられる方は96.6%となっています。一方、自分で食べることができない方はいないものの、一部介助が必要な方は0.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、自分で食べられる方は0.5ポイント低くなっています。

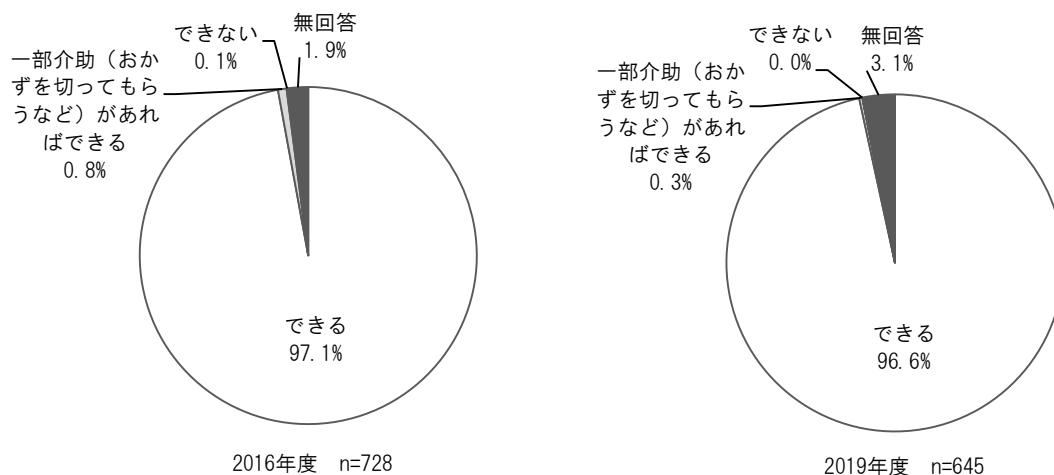
問3-(5) どなたかと食事をともしする機会



問3-(9) 1日の食事の回数 (経年比較)

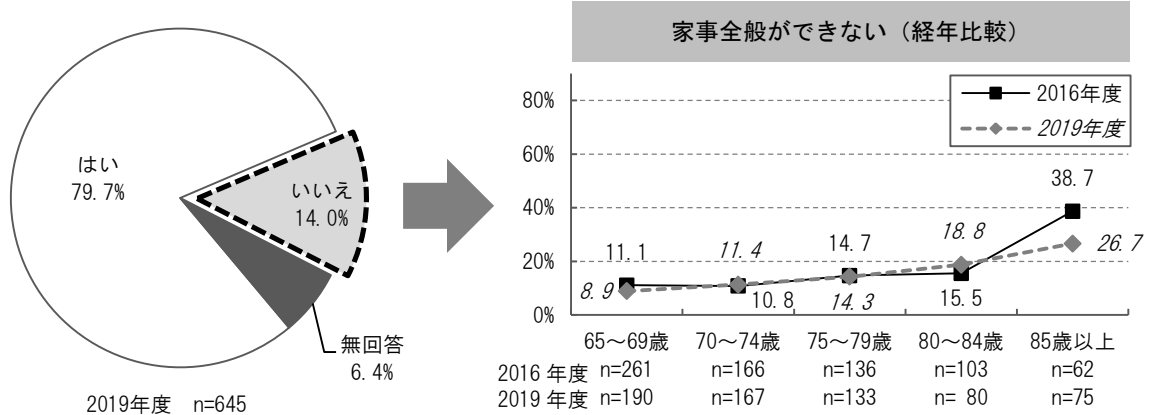


問4-(22) 食事は自分で食べられるか (経年比較)



○家事全般ができない方は14.0%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(23) 家事全般ができていますか

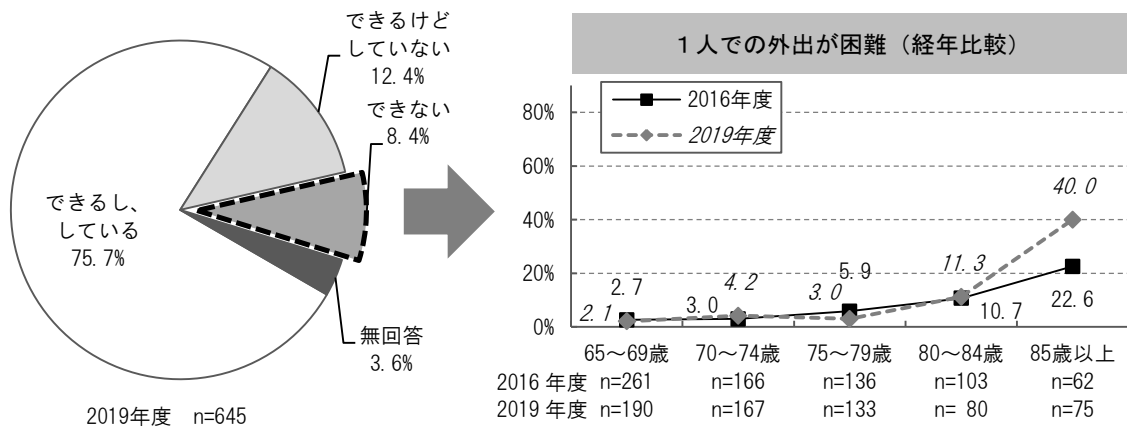


4 毎日の生活について

(1) IADL (手段的自立度) の状況

○バスや電車を使って1人で外出できない方は8.4%となり、年齢階級別にみると85歳以上は割合が大幅に高くなっています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

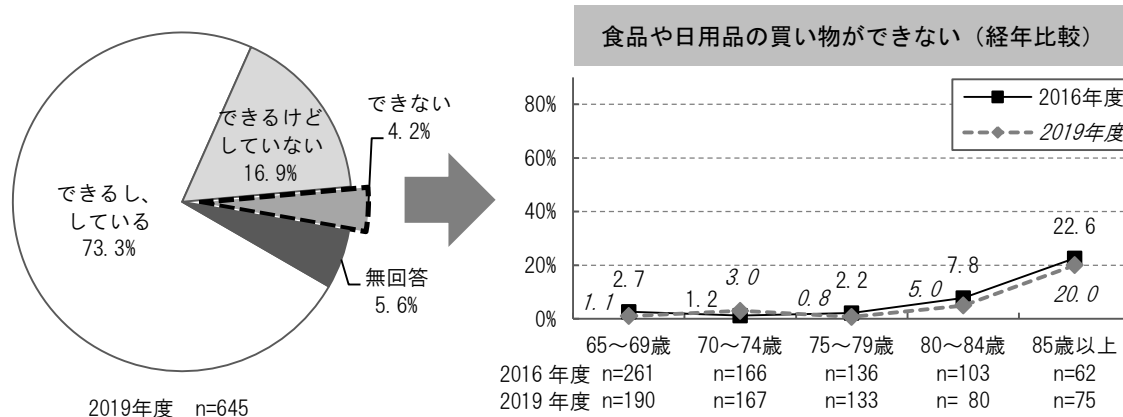


○自分で食品・日用品の買い物をできない方は4.2%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1割未満ですが、85歳以上は2割となっています。

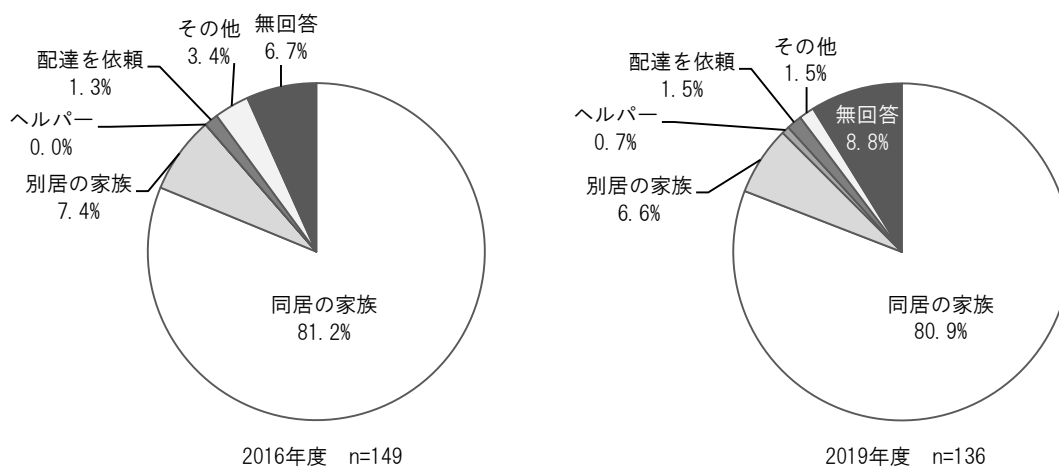
○食品・日用品の買い物を主にする人は、「同居の家族」（80.9%）が最も高くなっています。

○前回調査と比較すると、「ヘルパー」が0.7ポイント、「配達を依頼」が0.2ポイント高くなっています。

問4-(3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか



問4-(3).① 食品・日用品の買い物をする人（経年比較）
【問4-(3)において「2.できるけどしていない」「3.できない」に回答の方】

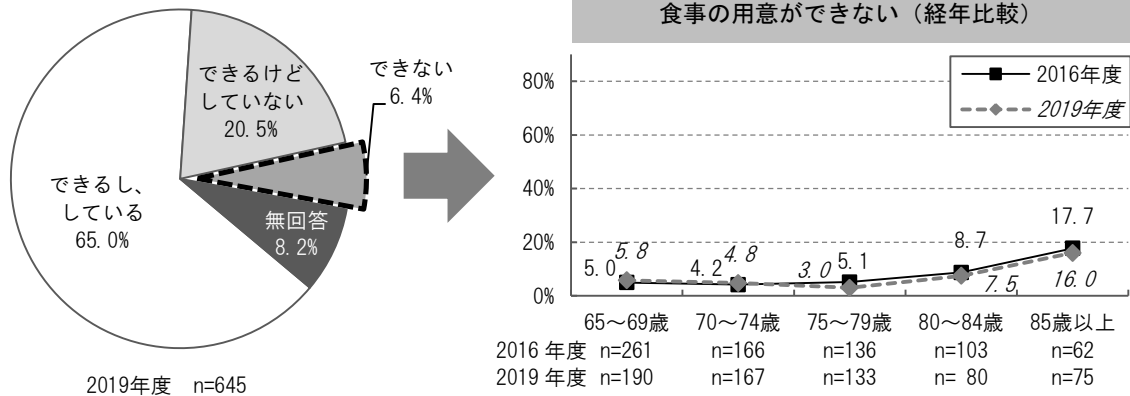


○自分で食事の用意ができない方は6.4%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1割未満で横ばい、85歳以上は2割弱となっています。

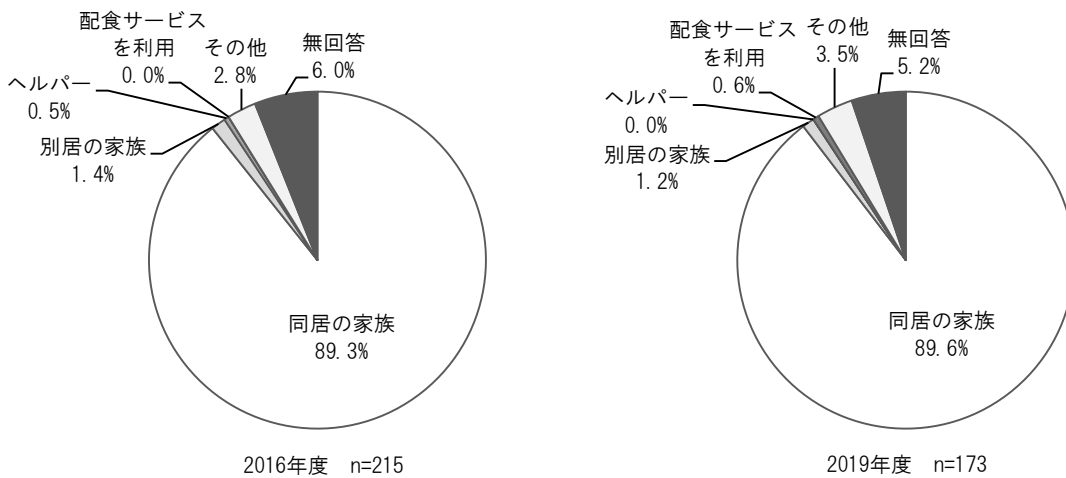
○食事の用意を主にする人は、「同居の家族」(89.6%)が最も高くなっています。

○前回調査と比較すると、「配食サービスを利用」が0.6ポイント、「同居の家族」が0.3ポイント高くなっています。

問4-(4) 自分で食事の用意をしているか



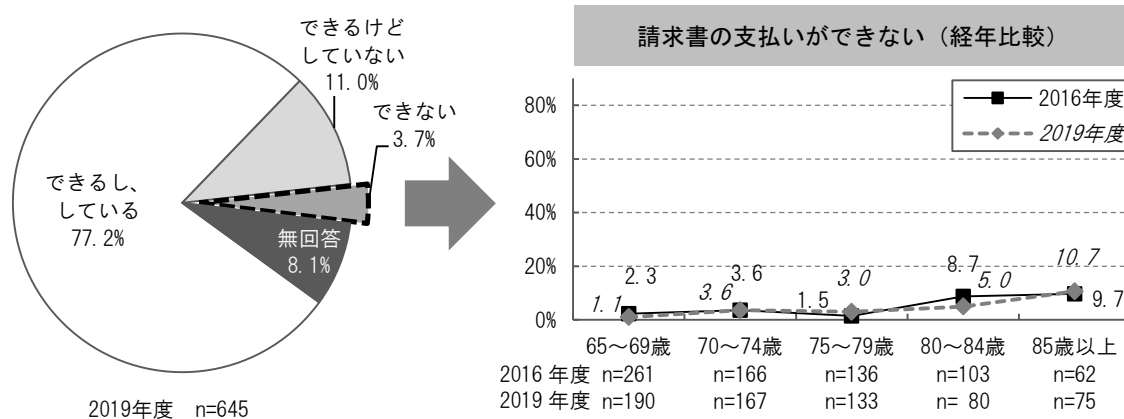
問4-(4).① 食事の用意をする人 (経年比較)
【問4-(4)において「2.できるけどしていない」「3.できない」に回答の方】



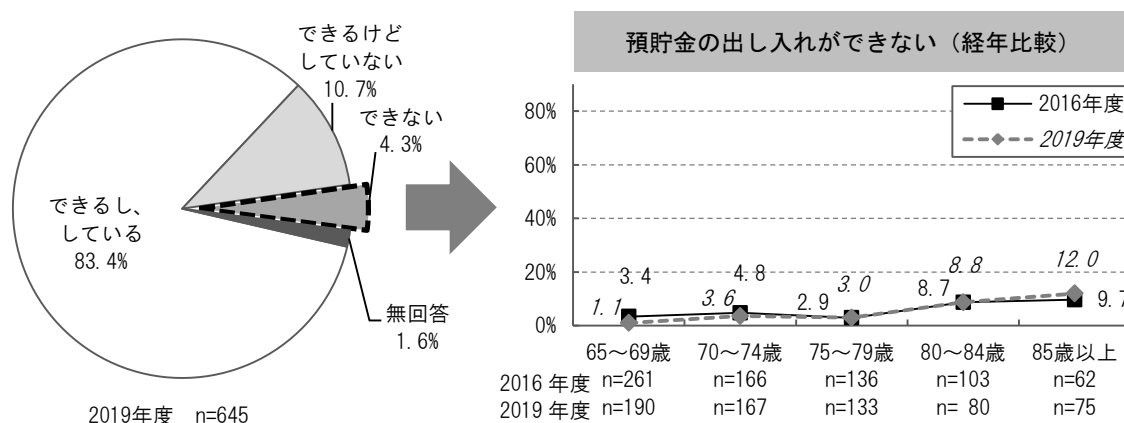
○自分で請求書の支払いができない方は3.7%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1割未満と低く、85歳以上でも約1割となっています。

○自分で預貯金の出し入れができない方は4.3%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1割未満と低く、85歳以上でも1割強となっています。

問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



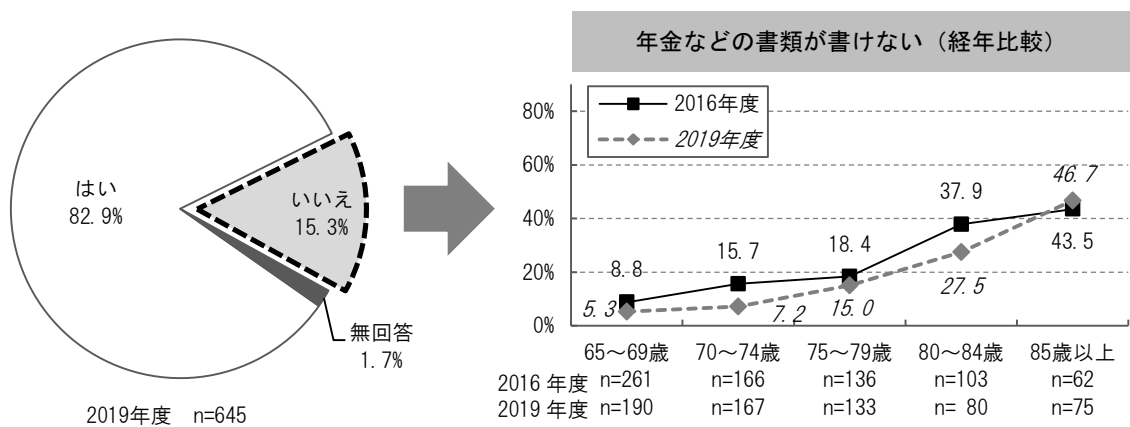
問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



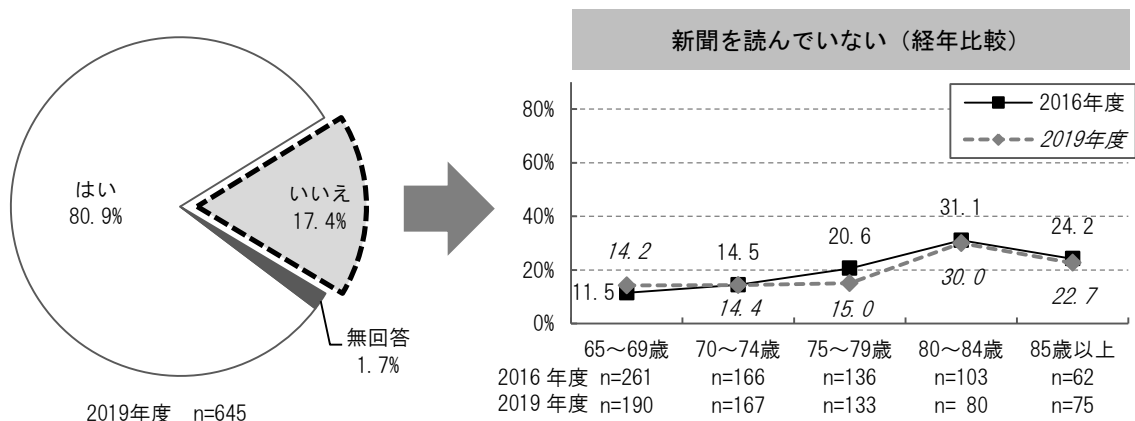
(2) 社会参加（知的能動性）の状況

- 年金などの書類が書けない方は15.3%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 新聞を読んでいない方は17.4%となり、年齢階級別にみると80～84歳は3割と高くなっています。
- 本や雑誌を読んでいない方は32.2%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 健康についての記事や番組に関心がない方は10.5%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1割前後の横ばい、85歳以上は2割強となっています。

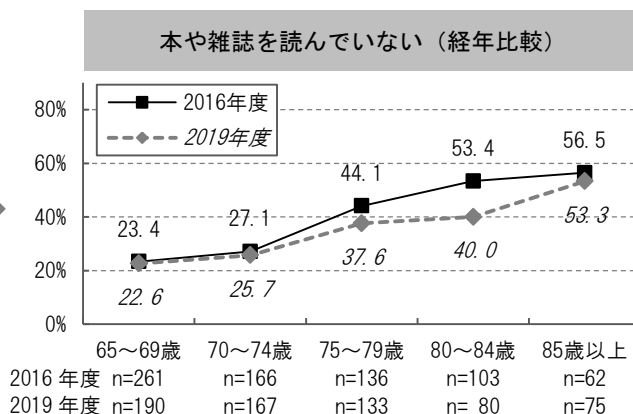
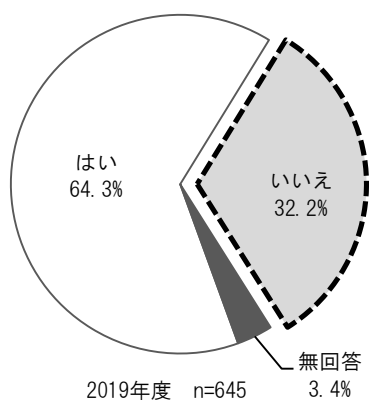
問4-(9) 年金などの書類が書けるか



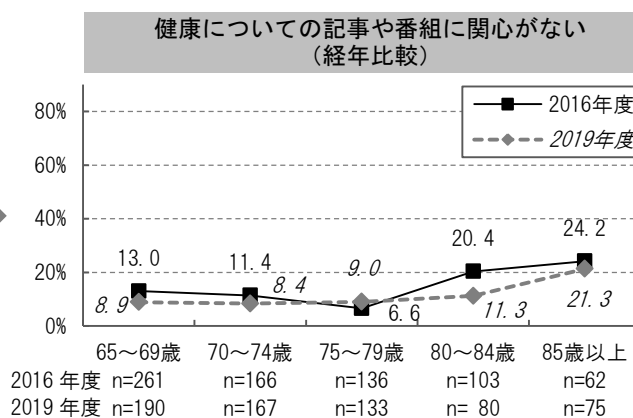
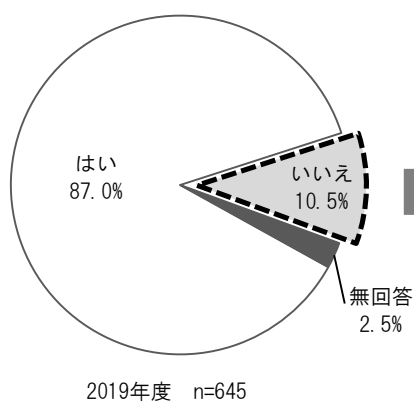
問4-(10) 新聞を読んでいるか



問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか



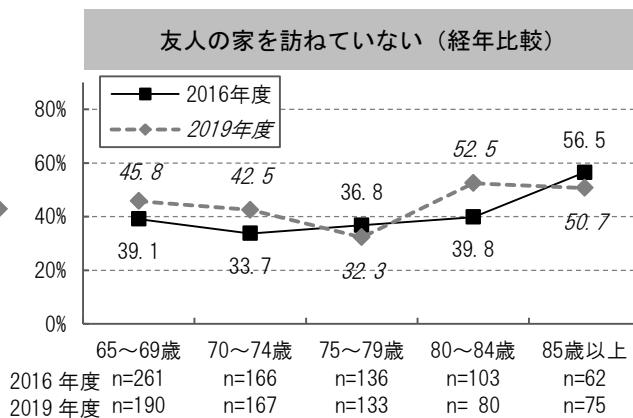
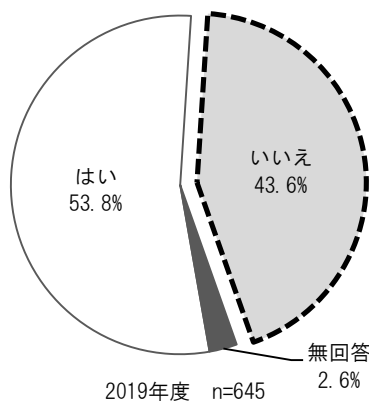
問4-(12) 健康についての記事や番組に関心があるか



(3) 社会参加 (社会的役割) の状況

○友人の家を訪ねていない方は43.6%となり、年齢階級別にみると65~79歳は3~4割台、80歳以上は5割を超え高くなっています。

問4-(13) 友人の家を訪ねているか

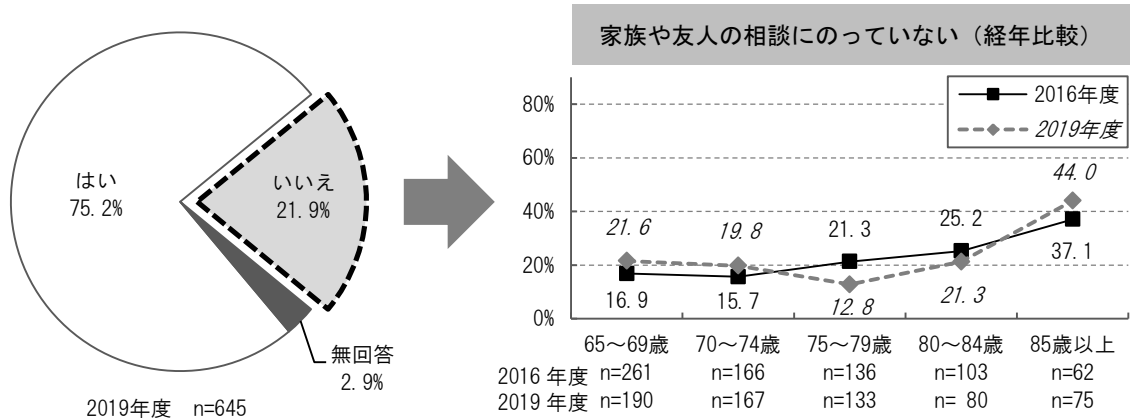


○家族や友人の相談にのっていない方は21.9%となり、年齢階級別にみると65～84歳は1～2割台と横ばい傾向、85歳以上は4割を超え高くなっています。

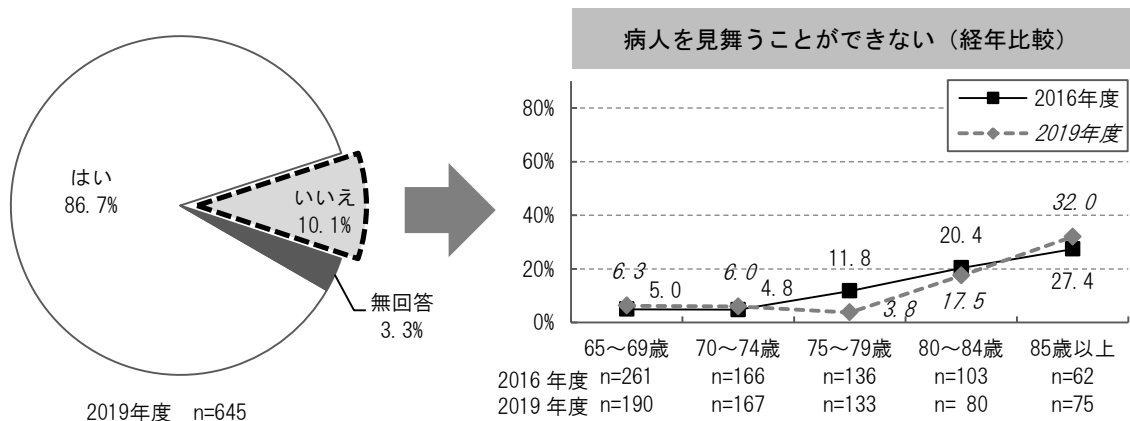
○病人を見舞うことができない方は10.1%となり、年齢階級別にみると65～79歳は1割未満と低いものの、80～84歳は2割弱、85歳以上は3割を超えています。

○若い人に自分から話しかけない方は21.6%となり、年齢階級別にみると65～84歳は2割前後の横ばい、85歳以上は3割を超え高くなっています。

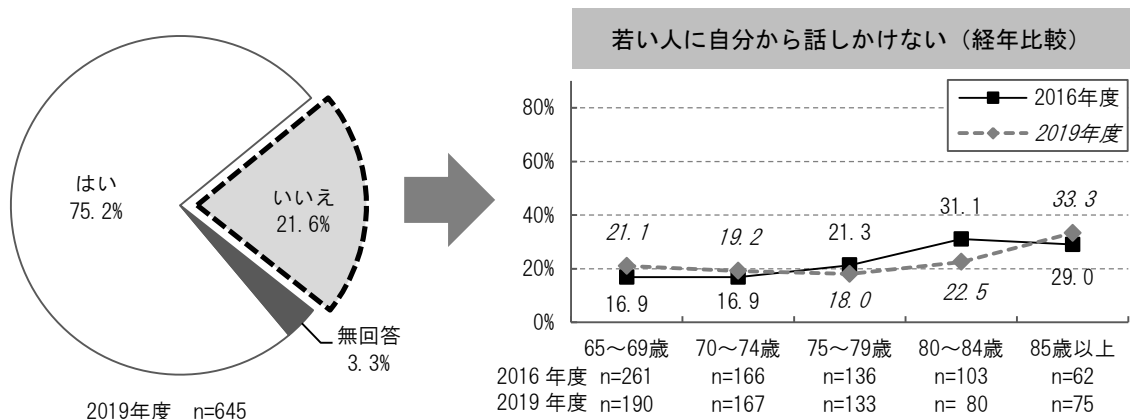
問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか



問4-(15) 病人を見舞うことができるか



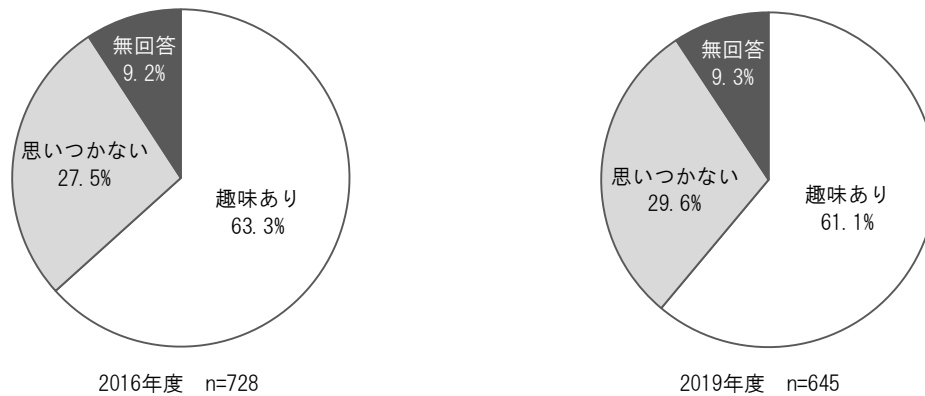
問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか



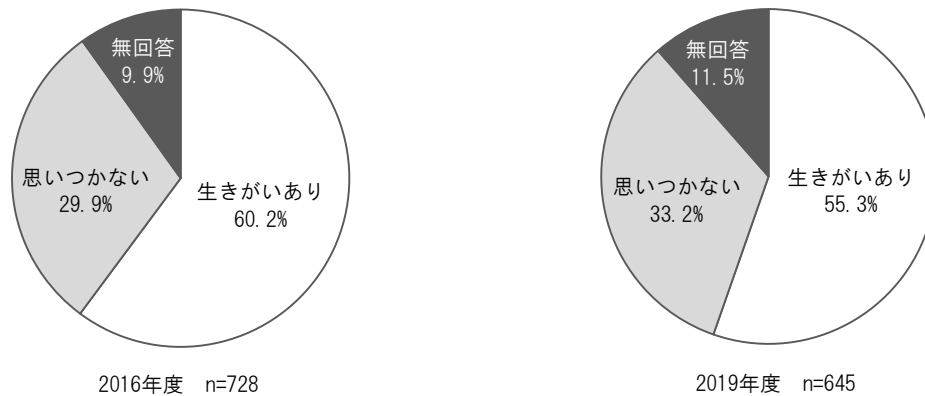
(4) こころの健康状態

- 趣味がある方は61.1%となり、思いつかないと回答した方の2倍以上となっています。
- 前回調査と比較すると、思いつかない方が2.1^{ポイント}高くなっています。
- 生きがいがある方は55.3%となり、生きがいが思いつかない方の約1.7倍となっています。
- 前回調査と比較すると、思いつかない方が3.3^{ポイント}高くなっています。
- この1か月間、気分が沈んだりすることがある方は31.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、気分が沈んだりすることがある方は0.9^{ポイント}高くなっています。

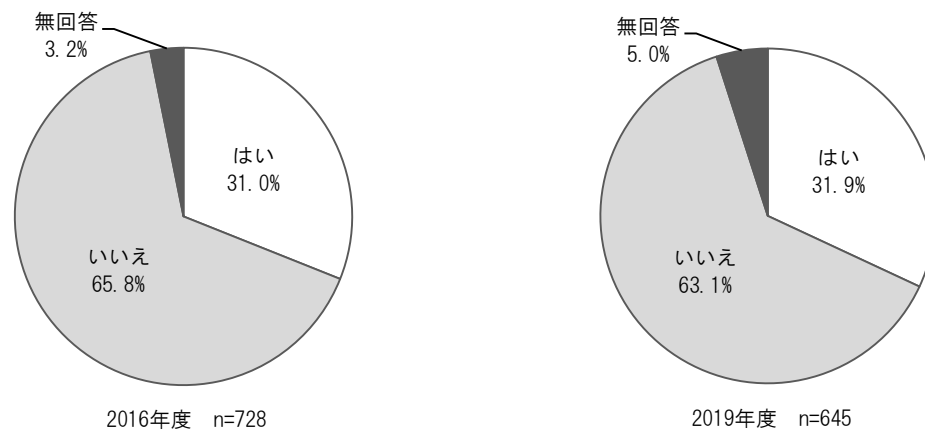
問4-(17) 趣味はあるか（経年比較）



問4-(18) 生きがいはあるか（経年比較）

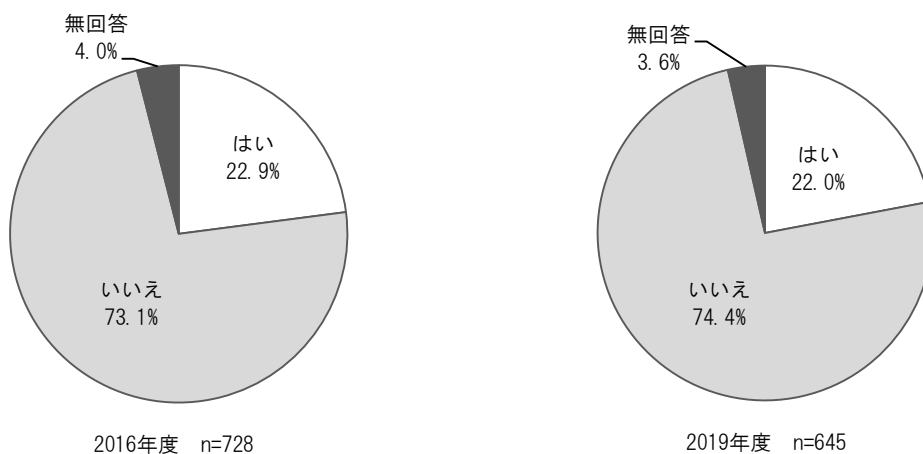


問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする（経年比較）

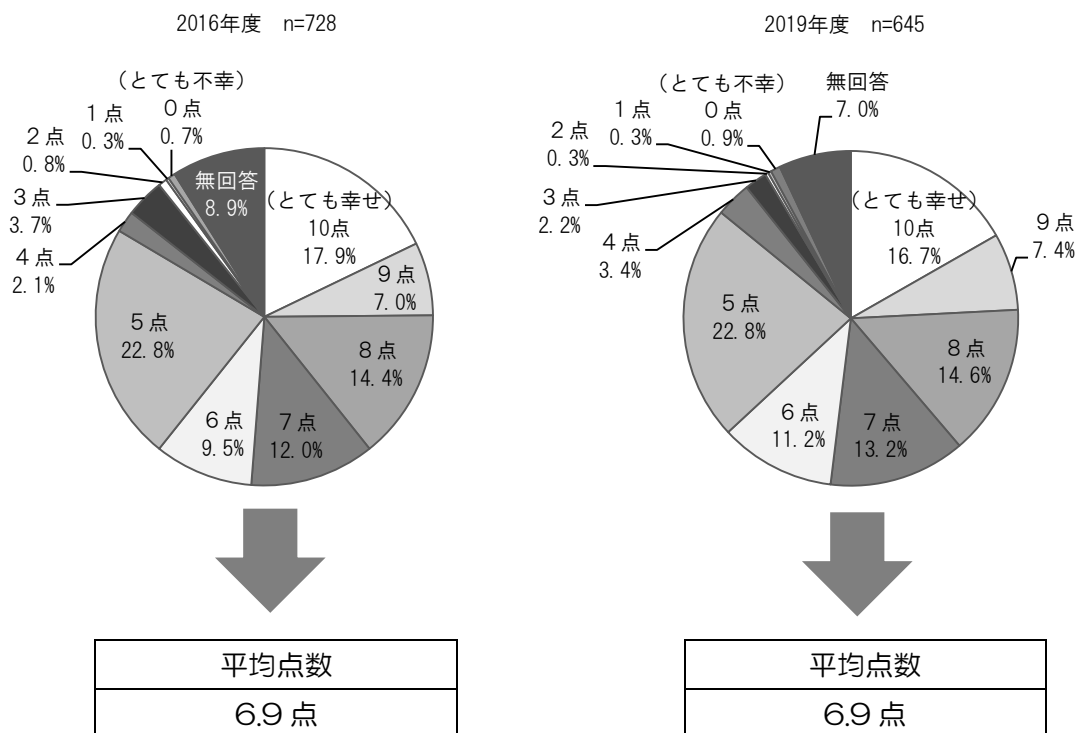


- この1か月間、物事に対して心から楽しめない方は22.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、物事に対して心から楽しめない方は0.9ポイント低くなっています。
- 現在の主観的幸福感では、「5点」(22.8%)が最も高く、次いで「(とても幸せ)10点」(16.7%)、「8点」(14.6%)、「7点」(13.2%)、「6点」(11.2%)となっています。なお、幸福感の平均点数は6.9点となっています。
- 前回調査と比較すると、「6点」が1.7ポイント、「4点」が1.3ポイント、「7点」が1.2ポイント高くなっています。平均点数に変化はありません。

問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない(経年比較)



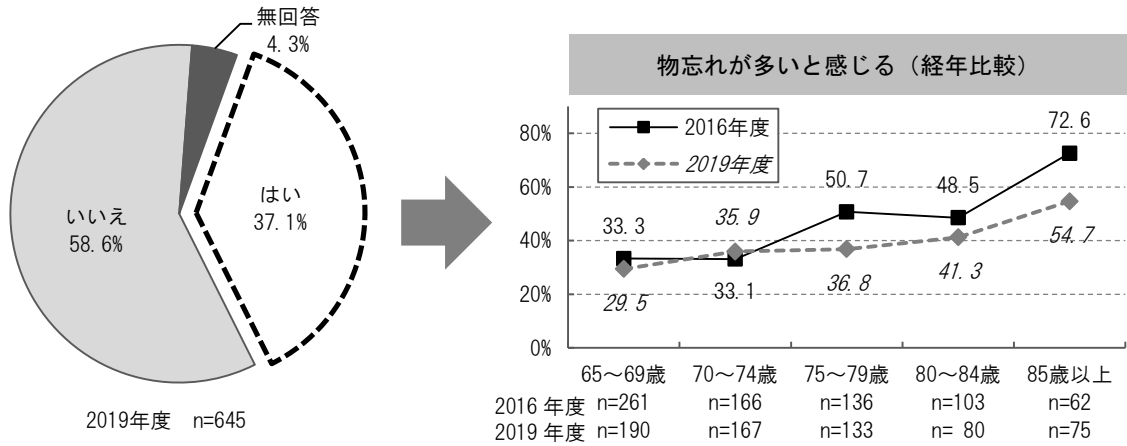
問7-(2) 現在の主観的幸福感(経年比較)



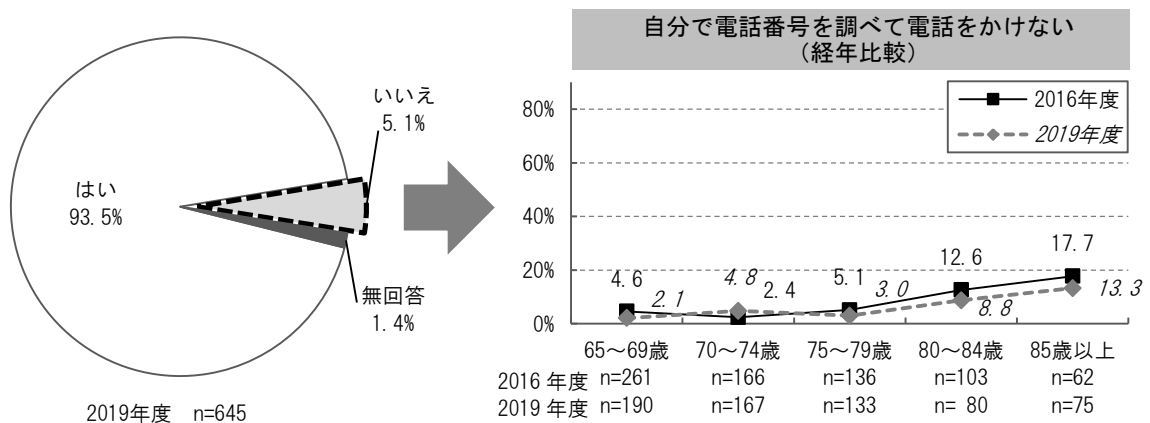
(5) 物忘れの状況

- 物忘れが多いと感じる方は37.1%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
- 自分で電話番号を調べて電話をかけない方は5.1%となり、年齢階級別にみると緩やかであるものの加齢とともに割合が高くなっています。
- 今日が何月何日かわからない時がある方は27.4%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

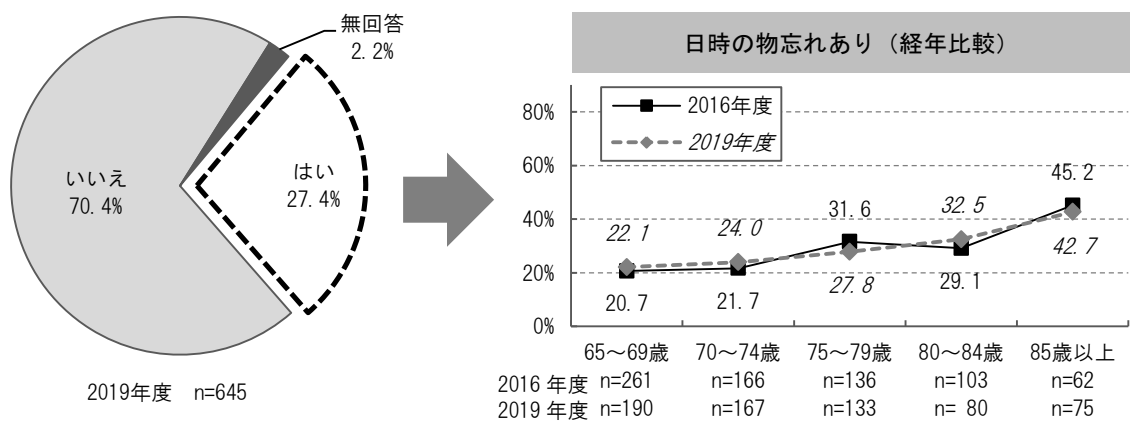
問4-(1) 物忘れが多いと感じるか



問4-(7) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか

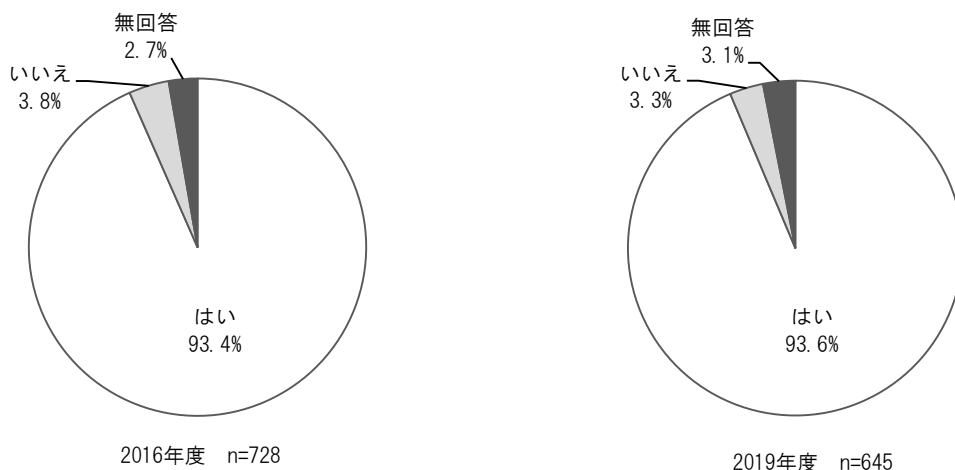


問4-(8) 今日が何月何日かわからない時があるか

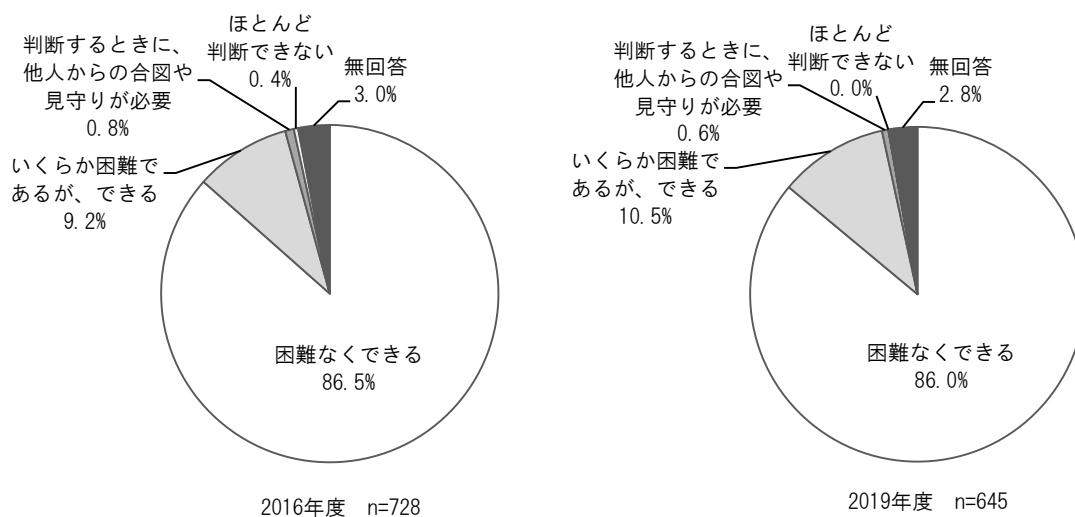


- 5分前に何をしていたか思い出せない方は3.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、思い出せない方は0.5^{ポイント}低くなっています。
- その日の活動を自分で判断することが「困難なくできる」方は86.0%、一方、「ほとんど判断できない」方はいないものの、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」な方は0.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、その日の活動の判断を「困難なくできる」方は0.5^{ポイント}低くなっています。

問4-(19) 5分前に何をしていたか思い出せるか（経年比較）



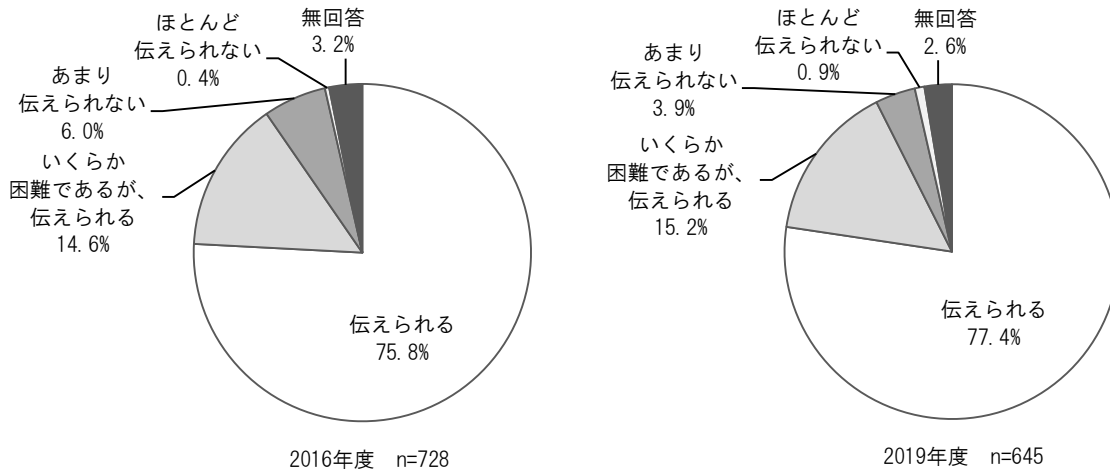
問4-(20) その日の活動を自分で判断できるか（経年比較）



○人に自分の考えを「伝えられる」方は77.4%、一方、「あまり伝えられない」方は3.9%、「ほとんど伝えられない」方は0.9%となっています。

○前回調査と比較すると、「ほとんど伝えられない」が0.5^{ポイント}高くなっています。

問4-(21) 人に自分の考えをうまく伝えられるか（経年比較）



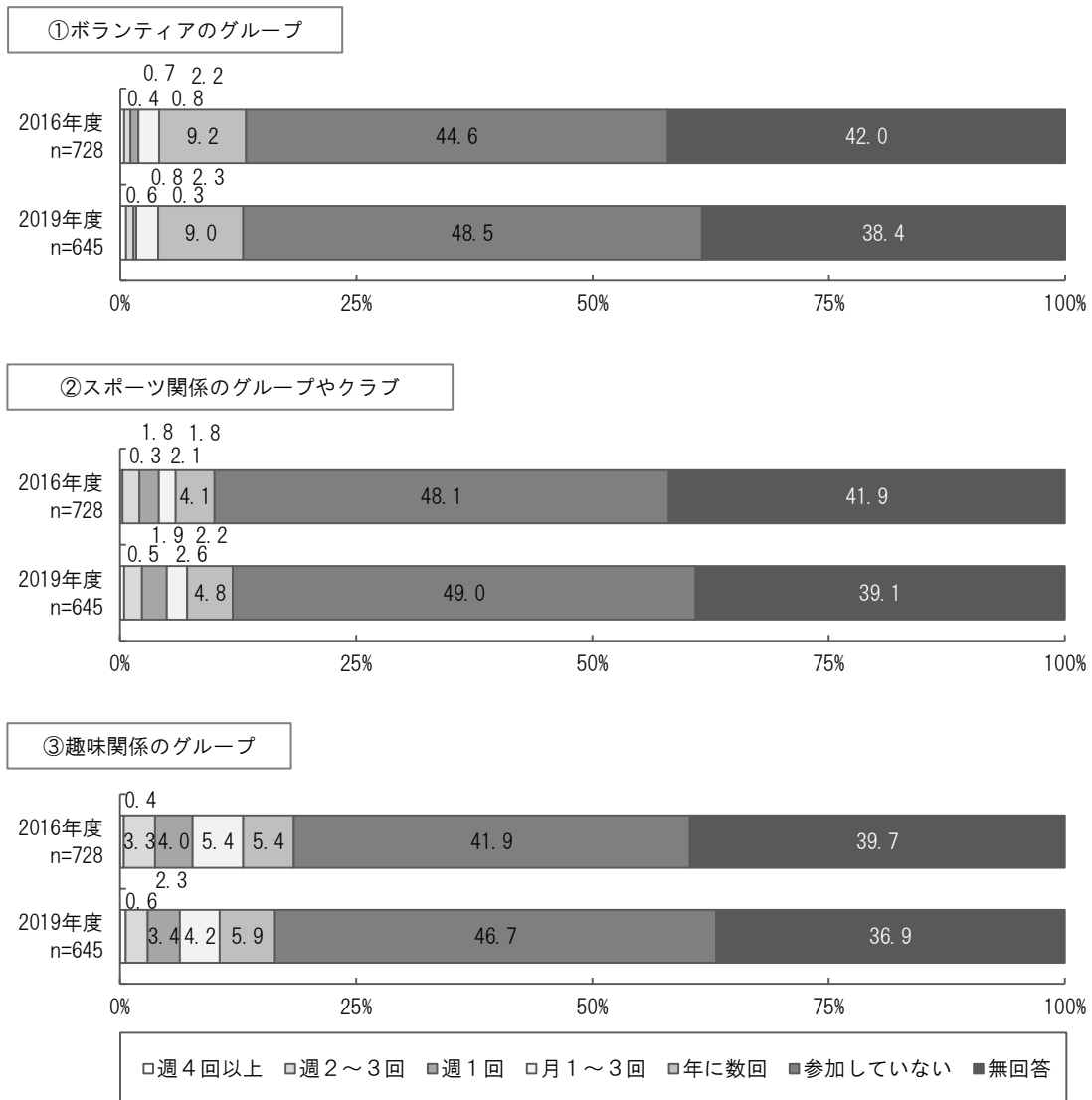
5 地域での活動について

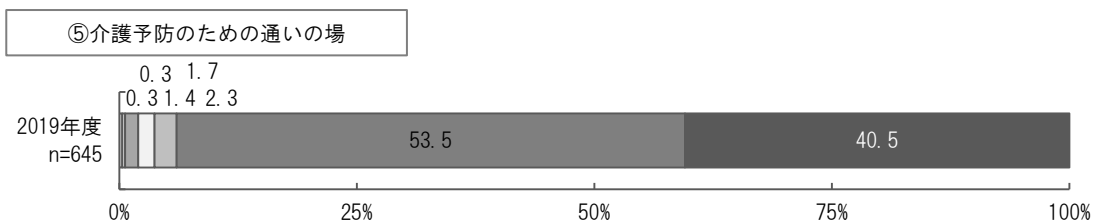
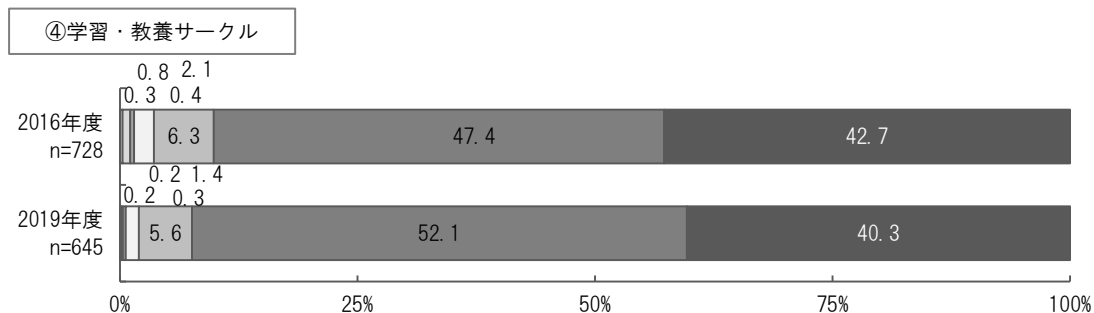
(1) グループ活動等の状況

○週1回以上参加している会・グループ等をみると、「⑧収入のある仕事」(13.7%)が最も高く、次いで「③趣味関係のグループ」(6.3%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(5.0%)となっています。

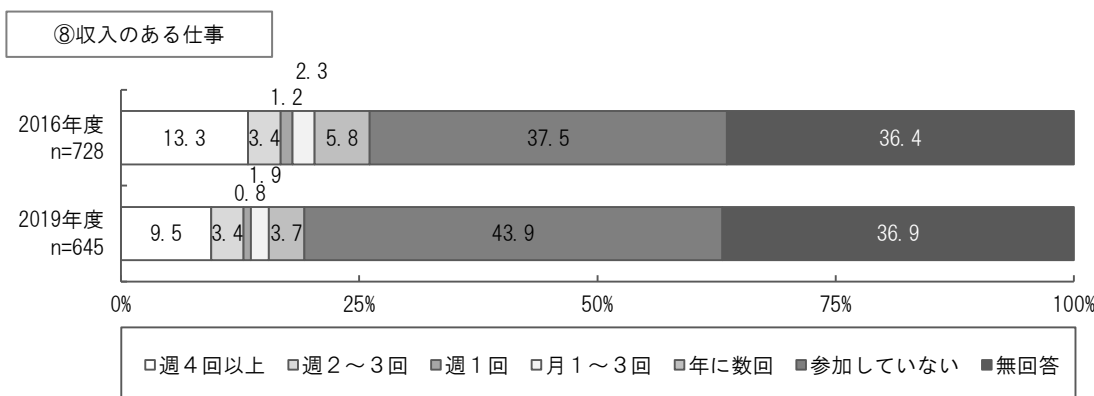
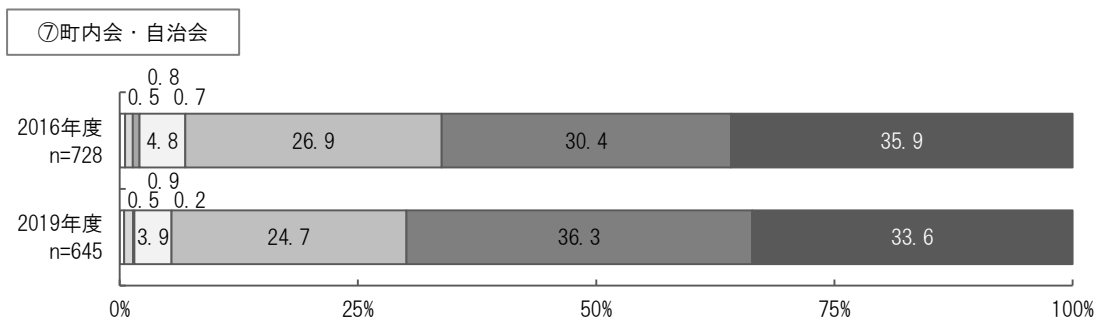
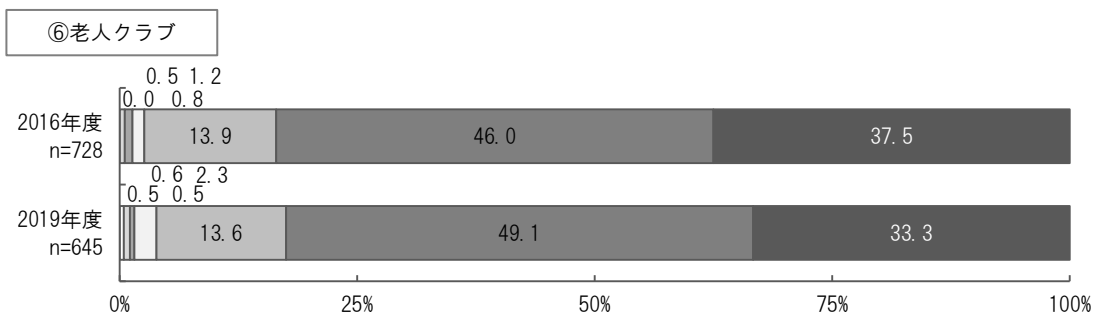
○前回調査と比較すると、「②スポーツ関係のグループやクラブ」「⑥老人クラブ」では週1回以上の参加割合がやや高くなっているものの、その他の会・グループ等では低くなっています。

問5-(1) グループ等への参加頻度 (経年比較)





※2016年度の調査項目にないため、経年比較はありません。



(2) 地域づくりに対する参加希望

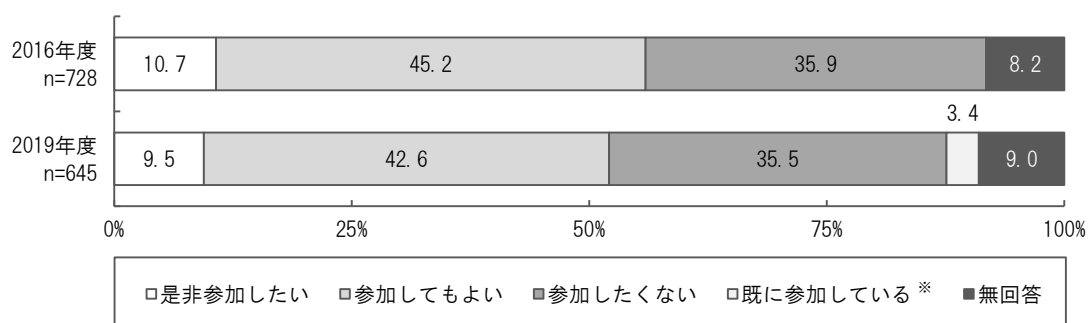
○健康づくり活動や趣味等のグループ活動に「参加してもよい」(42.6%)と「是非参加したい」(9.5%)を合わせた52.1%が参加者としての参加を希望しています。また、「既に参加している」方は3.4%となっています。

○前回調査と比較すると、「参加したくない」方は0.4%低くなっています。

○企画・運営としての参加希望は「参加してもよい」(31.9%)と「是非参加したい」(3.3%)を合わせた35.2%となっています。また、「参加している」方は2.5%となっています。

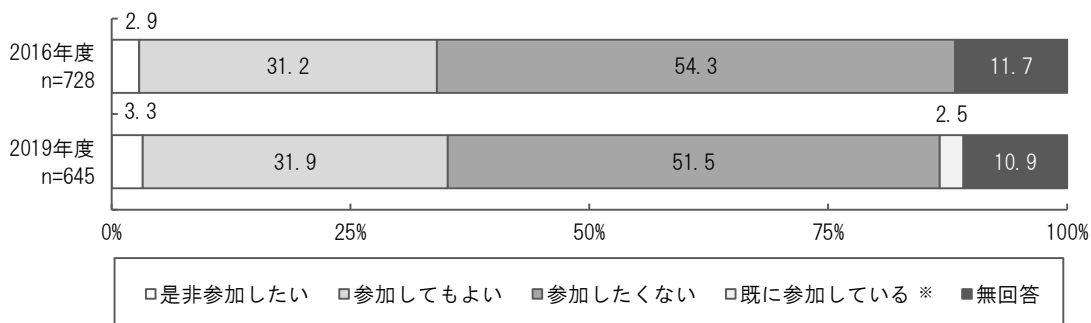
○前回調査と比較すると、「参加したくない」方は2.8%低くなっています。

問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか（経年比較）



※2016年度は選択肢に『既に参加している』はありません。

問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか（経年比較）



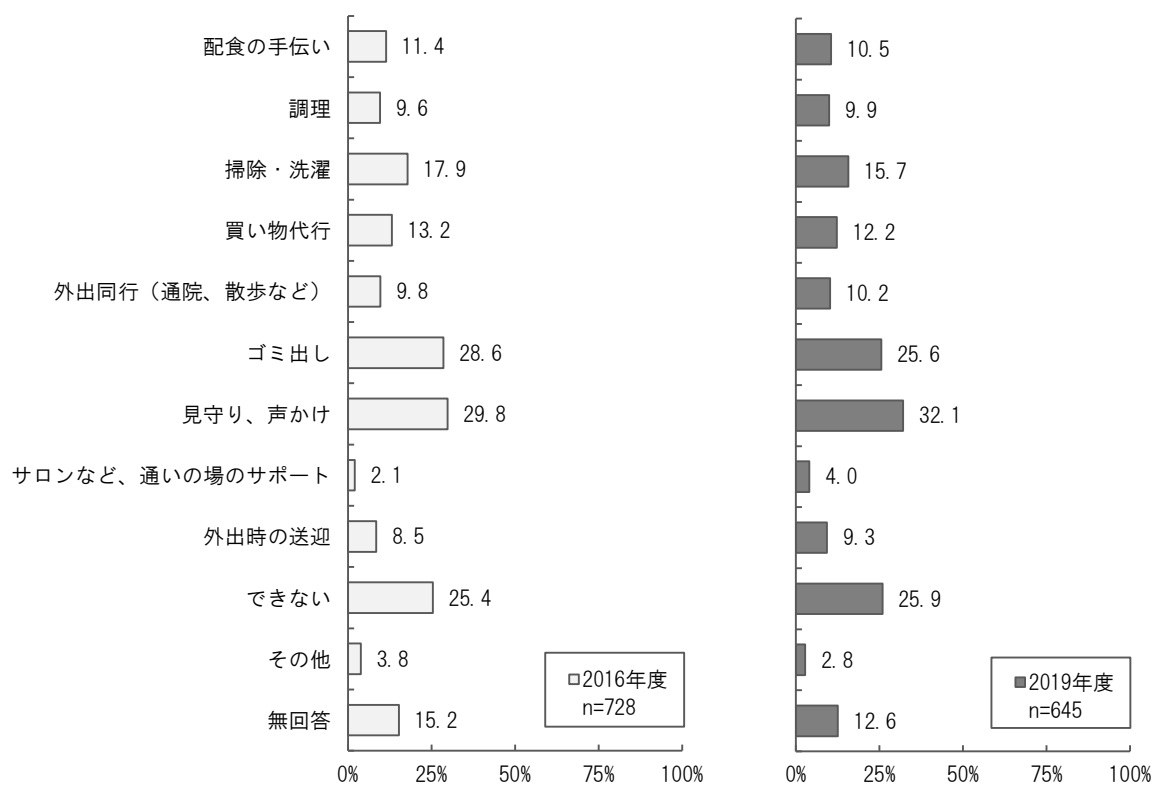
※2016年度は選択肢に『既に参加している』はありません。

(3) 地域でできる支援について

○地域でできる支援をみると、「見守り、声かけ」(32.1%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(25.6%)となっています。一方、「できない」は25.9%となっています。

○前回調査と比較すると、「見守り、声かけ」が2.3ポイント、「サロンなど、通いの場のサポート」が1.9ポイント高くなっています。また、「できない」も0.5ポイント高くなっています。

問5-(4) 地域でできる支援（経年比較）



6 たすけあいについて

(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

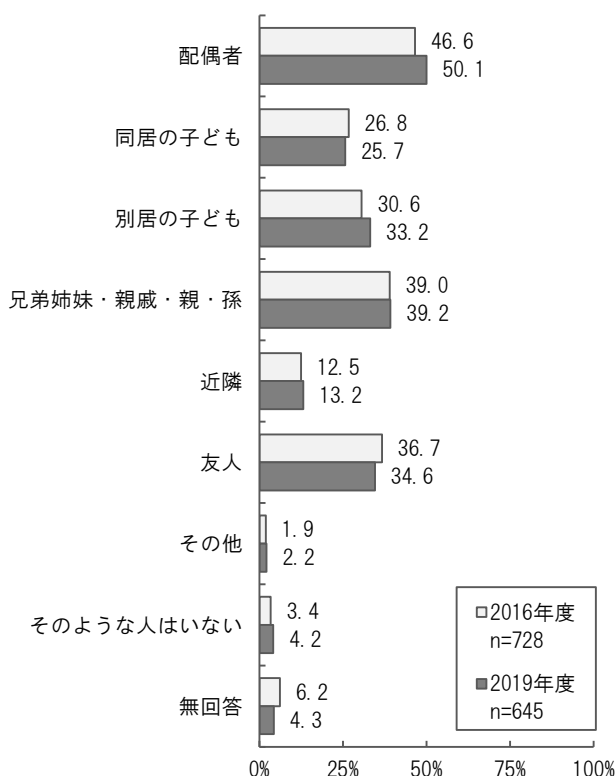
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（50.1%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（39.2%）、「友人」（34.6%）、「別居の子ども」（33.2%）、「同居の子ども」（25.7%）となっています。一方、「そのような人はいない」は4.2%となっています。

○前回調査と比較すると、「配偶者」が3.5ポイント高いものの、大きな変化はない状況です。

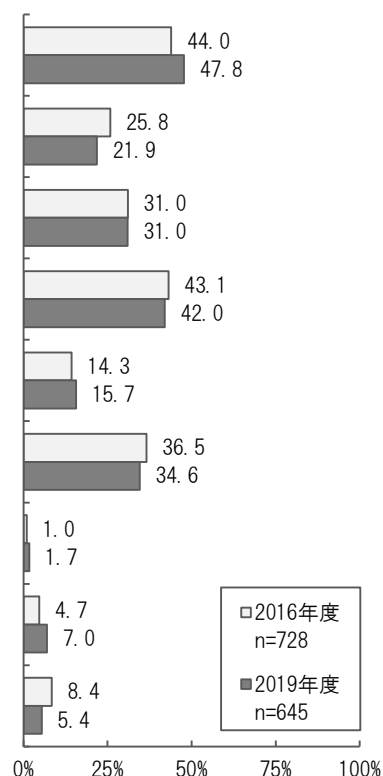
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（47.8%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（42.0%）、「友人」（34.6%）、「別居の子ども」（31.0%）、「同居の子ども」（21.9%）となっています。一方、「そのような人はいない」は7.0%となっています。

○前回調査と比較すると、「配偶者」が3.8ポイント、「そのような人はいない」が2.3ポイント高いものの、大きな変化はない状況です。

問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（経年比較）



問6-(2) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（経年比較）



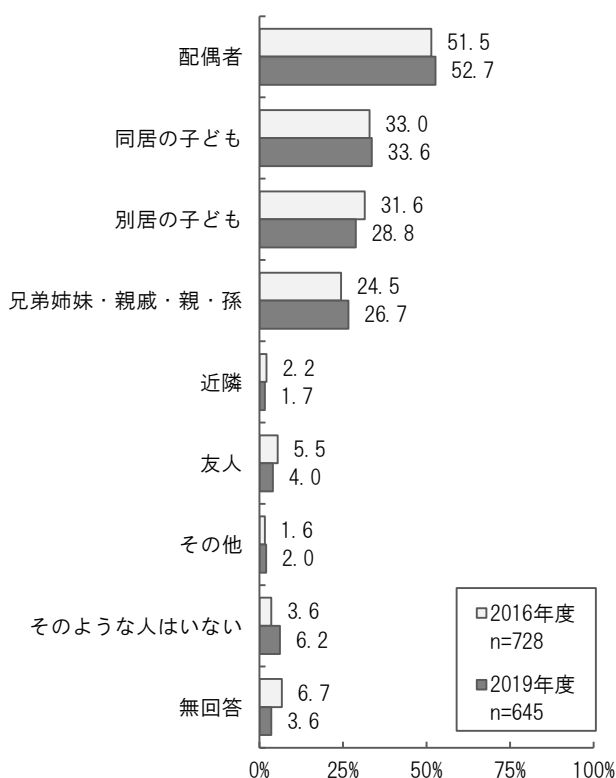
○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(52.7%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(33.6%)、「別居の子ども」(28.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(26.7%)となっています。

○前回調査と比較すると、「そのような人はいない」が2.6ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が2.2ポイント高いものの、大きな変化はない状況です。

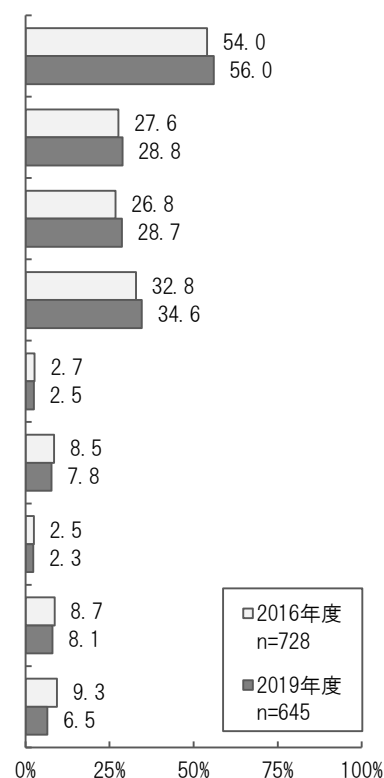
○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(56.0%)が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(34.6%)、「同居の子ども」(28.8%)、「別居の子ども」(28.7%)となっています。

○前回調査と比較すると、大きな変化はないものの、「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」では割合が高くなっています。

問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、
看病や世話をしてくれる人 (経年比較)



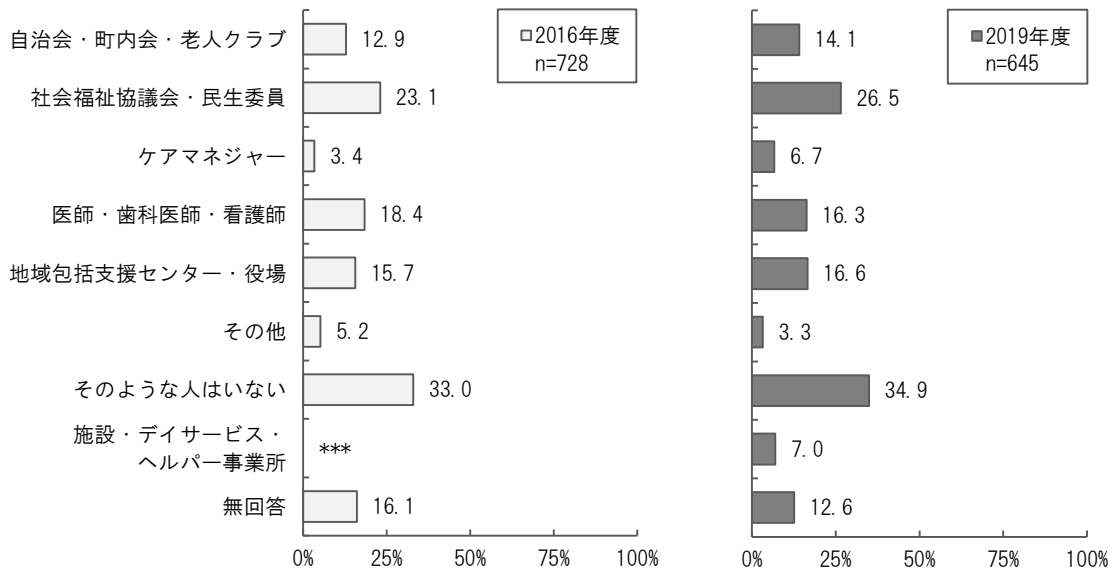
問6-(4) 看病や世話をしてあげる人
(経年比較)



○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「社会福祉協議会・民生委員」(26.5%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター・役場」(16.6%)、「医師・歯科医師・看護師」(16.3%)となっています。一方、「そのような人はいない」は34.9%となっています。

○前回調査と比較すると、「社会福祉協議会・民生委員」が3.4ポイント、「ケアマネジャー」が3.3ポイント、「自治会・町内会・老人クラブ」が1.2ポイント高くなっています。また、「そのような人はいない」も1.9ポイント高くなっています。

問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手 (経年比較)



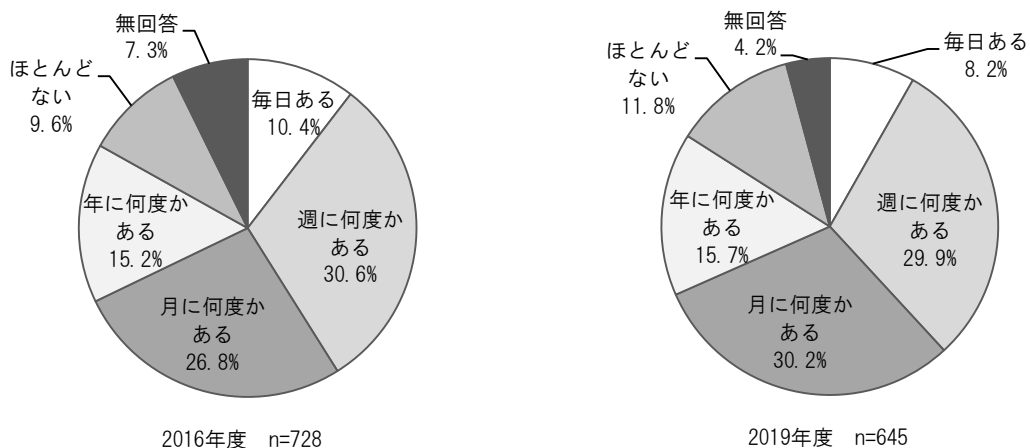
※2016年度調査には、「施設・デイサービス・ヘルパー事業所」はありません。

(2) 友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度をみると、「月に何度かある」(30.2%)が最も高く、次いで「週に何度かある」(29.9%)となっています。

○前回調査と比較すると、大きな変化はないものの、「ほとんどない」が2.2ポイント高くなっています。

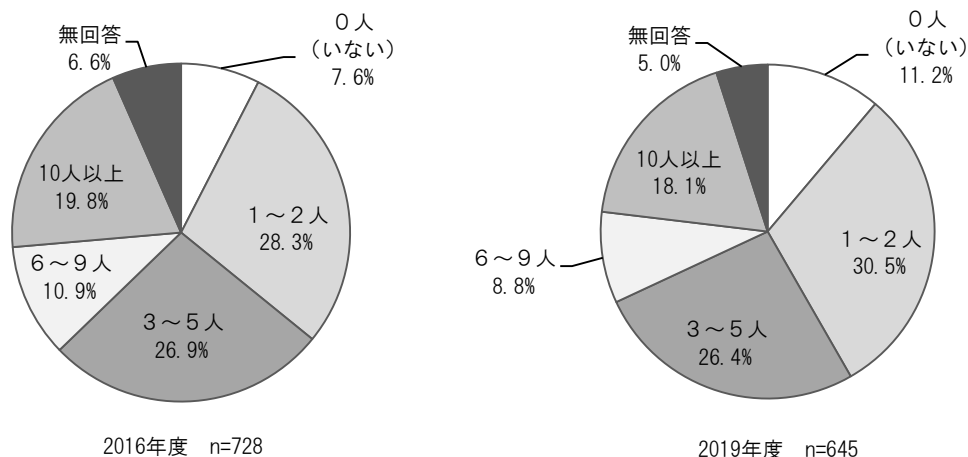
問6-(6) 友人・知人と会う頻度 (経年比較)



○1か月に会った友人・知人の人数をみると、「1～2人」(30.5%)が最も高く、次いで「3～5人」(26.4%)となっています。

○前回調査と比較すると、1か月に会った友人・知人の人数が2人以下の割合は、5.8ポイント高くなっています。

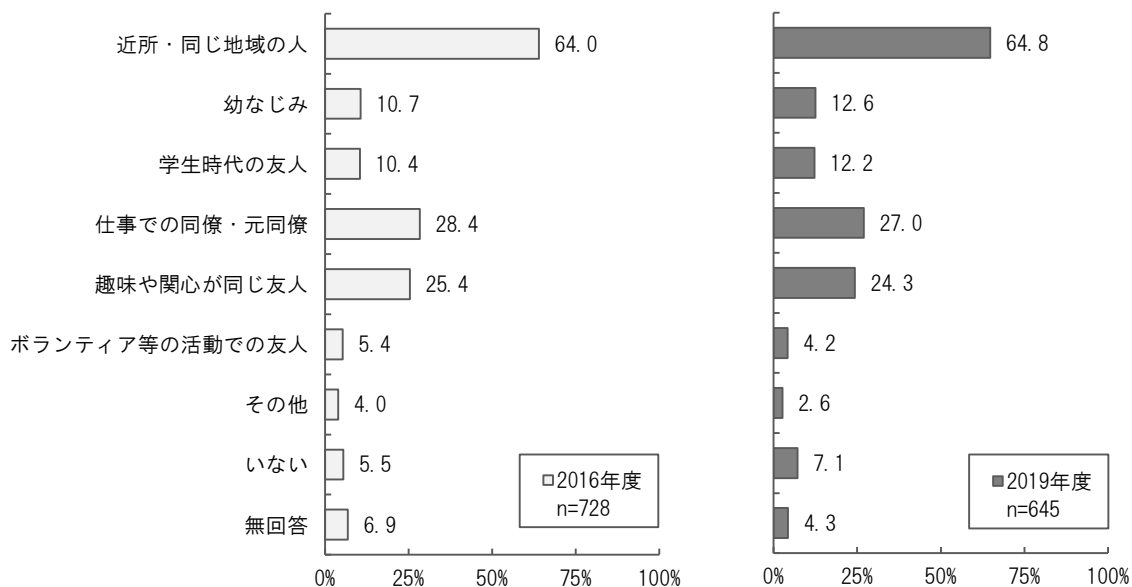
問6-(7) 最近1か月に会った友人・知人の人数 (経年比較)



○よく会う友人・知人は、「近所・同じ地域の人」(64.8%)が最も高く、次いで「仕事での同僚・元同僚」(27.0%)、「趣味や関心が同じ友人」(24.3%)となっています。

○前回調査と比較すると、「幼なじみ」が1.9ポイント、「学生時代の友人」が1.8ポイント高く、また、「いない」も1.6ポイント高くなっています。

問6-(8) よく合う友人・知人との関係 (経年比較)



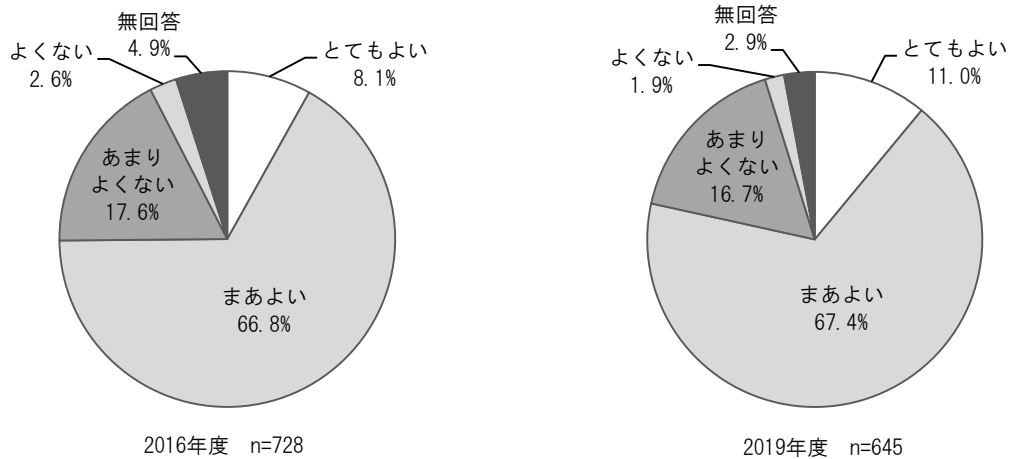
7 健康について

(1) 健康状態

○現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(67.4%)が最も高く、「とてもよい」(11.0%)を合わせた78.4%が健康と感じています。

○前回調査と比較すると、健康と感じている方は3.5^{ポイント}高くなっています。

問7-(1) 現在の主観的健康感（経年比較）



(2) 疾病と喫煙や飲酒の状況

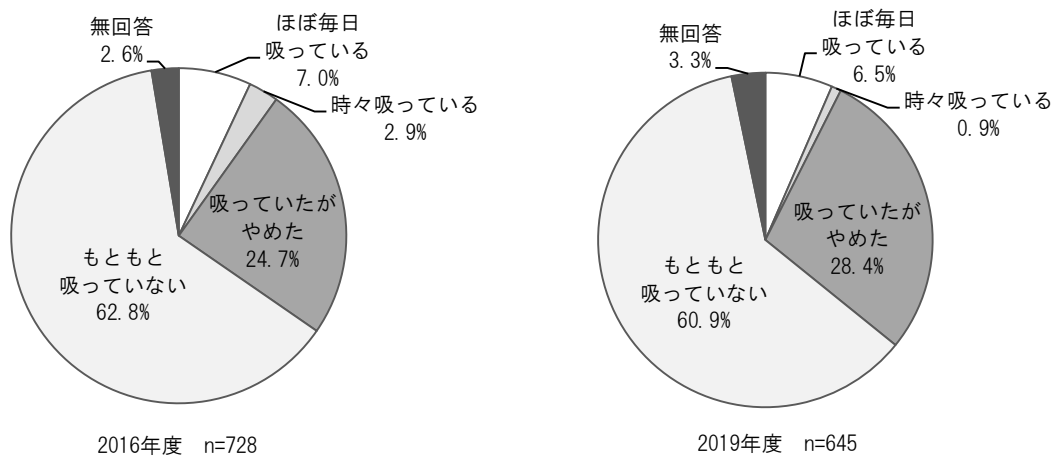
○喫煙の状況をみると、「ほぼ毎日吸っている」(6.5%)と「時々吸っている」(0.9%)を合わせた7.4%の方が喫煙者となっています。

○前回調査と比較すると、喫煙者は2.5^{ポイント}低くなっています。

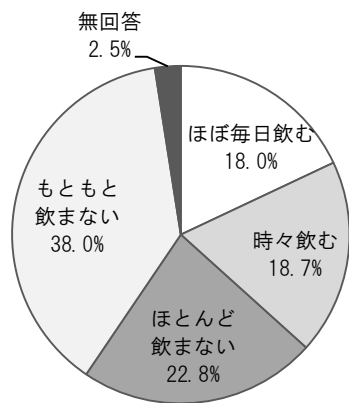
○飲酒の状況をみると、「ほぼ毎日飲む」(19.8%)と「時々飲む」(17.8%)を合わせた37.6%の方に飲酒の習慣があります。

○前回調査と比較すると、飲酒の習慣がある方は0.9^{ポイント}高くなっています。

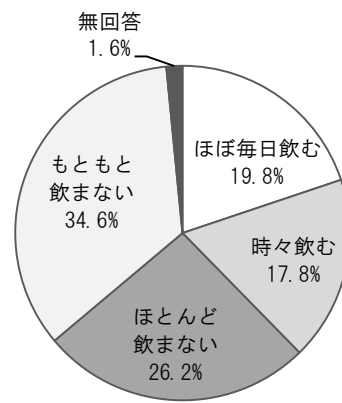
問7-(5) 喫煙の状況（経年比較）



問7-(6) 飲酒の状況（経年比較）



2016年度 n=728



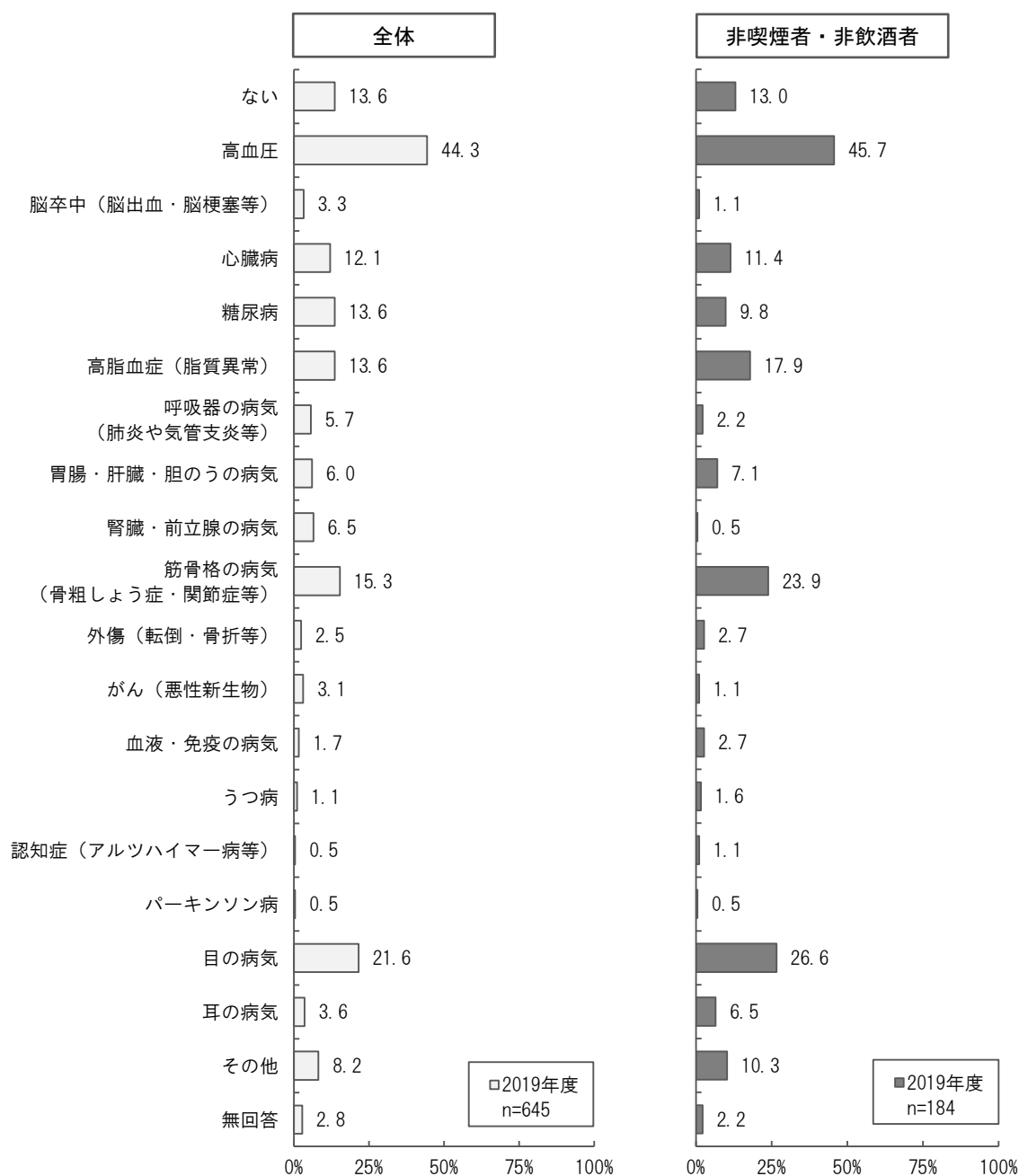
2019年度 n=645

○現在治療中、または後遺症のある病気をみると、全体では「高血圧」(44.3%)が最も高く、次いで「目の病気」(21.6%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(15.3%)となっています。また、「ない」と回答した方は13.6%となっています。

○また、非喫煙者・非飲酒者でも「高血圧」(45.7%)が最も高く、次いで「目の病気」(26.6%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(23.9%)となっています。

○全体と非喫煙者・非飲酒者の病気の状況を比較すると、上位3位の病気は同じものの、いずれも後者の割合が高くなっています。その一方で、「腎臓・前立腺の病気」は6.0^{ポイント}、「糖尿病」は3.8^{ポイント}、「呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)」は3.5^{ポイント}後者が低くなっています。

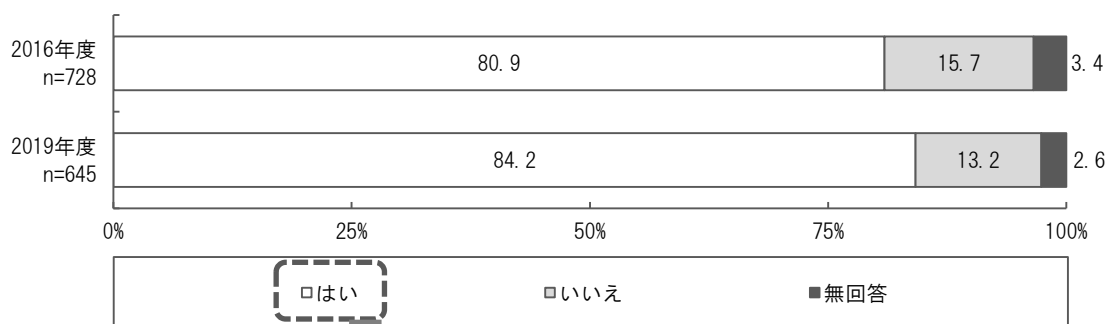
問7-(7) 現在治療中、または後遺症のある病気



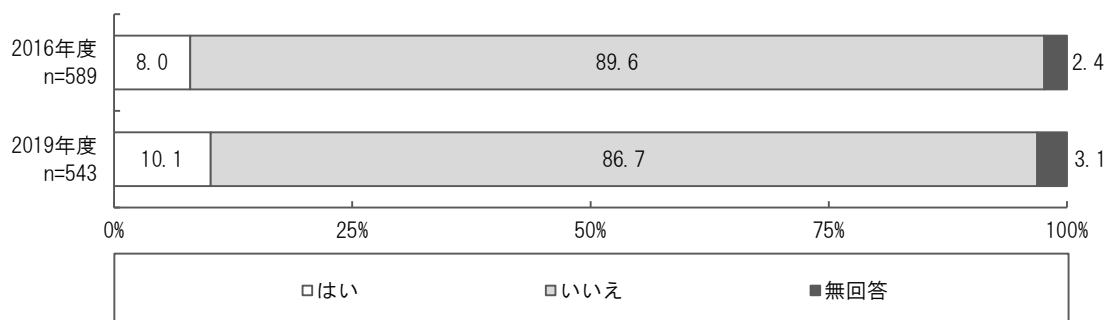
(3) 通院の状況

- 通院している方は84.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、通院している方は3.3^{ポイント}高くなっています。
- 通院している方のうち、通院に介助が必要な方は10.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、通院に介助が必要な方は2.1^{ポイント}高くなっています。

問7-(8) 通院しているか（経年比較）



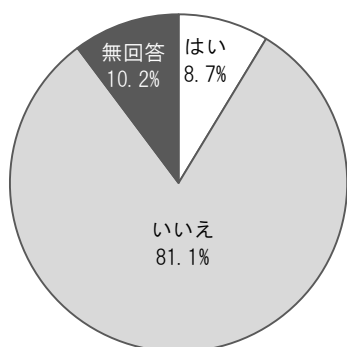
問7-(8).① 通院に介助が必要か



8 認知症にかかる相談窓口の把握について

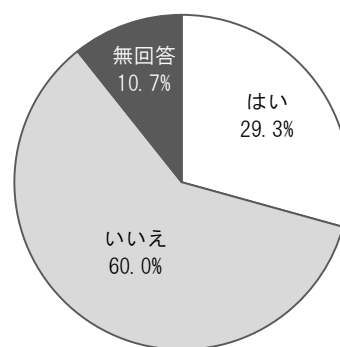
- 認知症の症状が本人または家族にあると回答した方は8.7%となっています。
- 認知症に関する相談窓口を知らない方は60.0%となっています。

問8-(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状があるか



2019年度 n=645

問8-(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか



2019年度 n=645